

4. 学修成果の評価の方針（アセスメント・ポリシー）

大谷大学では、卒業認定・学位授与の方針（DP）に掲げる卒業時に身につけるべき能力の修得状況を、機関レベル（大学全体）、教育課程レベル（学部・学科）、科目レベル（授業）の3段階で評価する方法を定めています。

1. 機関レベル（大学全体）

学生の志望進路に対する就職率・進学率、卒業年次を実施する学修行動調査によって修得状況を評価します。

2. 教育課程レベル（学部・学科）

卒業・進級要件の達成状況（単位修得状況・GPA）、卒業研究の成果・到達確認シート（研究計画書）の内容及び学部・学科の所定の教育課程における資格・免許の取得状況によって修得状況を評価します。

3. 科目レベル（授業）

シラバスで提示された成績評価基準に基づいて修得状況を評価します。

1. 卒業の要件 (学則第 19 条)

本学を卒業し学士の学位を得るためには、学生は 4 年以上在学し、次の基準及び卒業単位一覧表に基づいて、124 単位以上を履修しなければなりません。

(1) 共通基礎科目

共通基礎科目は、総合科目として「人間学」、大学導入科目として「学びの発見」、必修外国語として「英語」並びに「初修外国語（ドイツ語、フランス語、中国語、韓国・朝鮮語、又は日本語〔外国人留学生に限る〕）」を、次のとおり履修しなければなりません。

※「初修外国語」は文学部・国際学部のみ必修となります。

ア 総合科目 計 8 単位以上

「人間学Ⅰ」 4 単位

「人間学Ⅱ」 4 単位以上

イ 大学導入

「学びの発見」 2 単位

ウ 必修外国語

文学部

「英語Ⅰ」 4 単位及び「初修外国語Ⅰ」 4 単位

「英語Ⅱ」又は「初修外国語Ⅱ」 4 単位

社会学部

「英語Ⅰ」 4 単位及び「初修外国語Ⅰ」 0 単位以上

「英語Ⅱ」 4 単位及び「初修外国語Ⅱ」 0 単位以上

教育学部

「英語Ⅰ」 4 単位及び「初修外国語Ⅰ」 0 単位以上

「英語Ⅱ」 4 単位及び「初修外国語Ⅱ」 0 単位以上

国際学部

「英語Ⅰ」 4 単位及び「初修外国語Ⅰ」 4 単位

「英語Ⅱ」又は「初修外国語Ⅱ」 4 単位

エ 選択外国語 0 単位以上

(2) 学科専門科目

学科専門科目は、次のとおり履修しなければなりません。

文学部 計 66 単位以上

社会学部 計 92 単位以上

教育学部 計 86 単位以上

国際学部 計 66 単位以上又は 70 単位以上

(3) 現代総合科目

現代総合科目は、次のとおり履修しなければなりません。

文学部 キャリア形成系、自然生命系及び歴史文化系からそれぞれ 4 単位以上、合計 12 単位以上

社会学部 現代総合科目全体で合計 6 単位以上

教育学部 現代総合科目全体で合計 6 単位以上

国際学部 キャリア形成系、自然生命系及び歴史文化系からそれぞれ 4 単位以上、合計 12 単位以上

I. 履修要領

教育研究目的

卒業の要件

単位制

単位修得
の認定

学部・学科別
卒業単位
配当表

開講科目表

時間割作成

聴講登録

共通基礎
科目外国語

現代総合科目・
自己選択科目

スポーツ
科目

国際交流
科目

コンソーシアム
単位互換制度

インターシップ

卒業研究

進級基準

試験

成績評価

GPA

規程集

大谷大学
履修規程

大谷大学
進級規程

II. 資格の取得

教職課程

保育士養成課程

大谷保育協会
保育心理士課程

学校図書館
司書教諭課程

博物館学課程

図書館学課程

真宗大谷派
教師課程

社会教育課程
【社会教育主事任用資格】

社会福祉士
国家試験
受験資格課程

社会福祉主事
【任用資格】

開講科目表

巻末

科目担当者
一覧表

(4) 自己選択科目

自己選択科目は、他学部又は他学科開講科目で履修した単位並びに他の大学等で認定された単位を自己選択科目として認定することができます。

詳細については、第2章「4. 学部・学科別卒業単位配当表」、第5章「1. 大谷大学履修規程」を参照してください。

【卒業単位一覧表】

学部		文学部					社会学部		教育学部		国際学部
		真宗 学科	仏教 学科	哲学科	歴史 学科	文学科	現代社 会学科	コミュ ニティ デザイン 学科	教育学科		
科目群	学科										
		初等 教育 コース	幼児 教育 コース								
共通 基礎 科目	総合科目	8以上	8以上	8以上	8以上	8以上	8以上	8以上	8以上	8以上	8以上
	大学導入	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2
	必修外国語	12	12	12	12	12	8以上	8以上	8以上	8以上	12
	選択外国語	0以上	0以上	0以上	0以上	0以上	0以上	0以上	0以上	0以上	2又は 8以上
	小計	22以上	22以上	22以上	22以上	22以上	18以上	18以上	18以上	18以上	24又は 30以上
学科 専門 科目	演習	16	16	16	16	16	16	16	16	16	16
	概論	4以上	4以上	8以上	8以上	8以上	8	10以上	4	4	4
	講義	16以上	20以上	22以上	18以上	20以上	40以上	38以上	36以上	34以上	18又は 26以上
	実践研究	22以上	18以上	12以上	16以上	14以上	20以上	20以上	22以上	24以上	12又は 24以上
	卒業研究 (卒業論文・卒業 研究・卒業制作)	8	8	8	8	8	8	8	8	8	8
	小計	66以上	66以上	66以上	66以上	66以上	92以上	92以上	86以上	86以上	66又は 70以上
現代 総合 科目	キャリア 形成系	4以上	4以上	4以上	4以上	4以上	0以上	0以上	0以上	0以上	4以上
	自然生命系	4以上	4以上	4以上	4以上	4以上	0以上	0以上	0以上	0以上	4以上
	歴史文化系	4以上	4以上	4以上	4以上	4以上	0以上	0以上	0以上	0以上	4以上
	小計	12以上	12以上	12以上	12以上	12以上	6以上	6以上	6以上	6以上	12以上
	自己選択科目	0以上	0以上	0以上	0以上	0以上	0以上	0以上	0以上	0以上	0以上
合計		124 以上	124 以上	124 以上	124 以上	124 以上	124 以上	124 以上	124 以上	124 以上	124 以上

2. 単位制 …45 時間の学修で 1 単位！

大学における授業はその学修量を「単位」という言葉で表します。「1 単位の授業科目」は「45 時間の学修を必要とする内容（自学自習時間を含む）」をもって構成することが標準となっています。

$$1 \text{ 単位} = \text{授業時間} + \text{準備学習復習} = 45 \text{ 時間}$$

本学の授業は 1 セメスターを 15 週として前期・後期に分かれています。週 1 回あたりは各授業とも 1 時間 30 分ですが、制度上これを 2 時間として計算します。

各科目の単位数は、この授業時間数と自習時間数、そして 1 単位あたりの学修量をもとに次のように計算します。

<学修量と単位数の例> ※授業時間について、講義・演習は 15 時間、外国語・実習・実技は 30 時間で計算した場合です。

授業種別	1 週あたりの学修量	1 セメスター	学期学修量	1 単位あたりの学修量	単位数
講義・演習	授業 2 時間 + 自習 4 時間 = 6 時間 [実質 90 分]	15 週	90 時間	45 時間	2
外国語 実験・実習・実技	授業 2 時間 + 自習 1 時間 = 3 時間 [実質 90 分]	15 週	45 時間	45 時間	1

講義・演習

原則として、15～30 時間の授業時間と自習時間を合わせた 45 時間の学修をもって 1 単位とします。

外国語・実験・実習・実技

原則として、30～45 時間の授業時間と自習時間を合わせた 45 時間の学修をもって 1 単位とします。

授業時間

時限	1	2	昼休み	3	4	5	6
時間	9:00～10:30	10:40～12:10	12:10～13:00	13:00～14:30	14:40～16:10	16:20～17:50	18:00～19:30

I. 履修要領

教育研究目的

卒業の要件

単位制

単位修得
の認定

学部・学科別
卒業単位
配当表

開講科目表

時間制作成

聴講登録

共通基礎
科目外国語

現代総合科目・
自己選択科目

スポーツ
科目

国際交流
科目

コンソーシアム
単位互換制度

インターシップ

卒業研究

進級基準

試験

成績評価

GPA

大谷大学
履修規程

大谷大学
進級規程

規程集

II. 資格の取得

教職課程

保育士養成課程

大谷保育協会
保育心理士課程

学校図書館
司書教諭課程

博物館学課程

図書館学課程

真宗大谷派
教師課程

社会教育課程
【社会教育主事任用資格】

社会福祉士
国家試験
受験資格課程

社会福祉主事
【任用資格】

開講科目表

科目担当者
一覧表

巻末

3. 単位修得の認定

[1] 授業科目の単位の修得（聴講登録から成績評価まで）

本学では、学年始めに1年間の学習計画を立て、各学期で履修しようとする授業科目について、定められた期日に届出をすることになっています。これを「聴講登録」と呼びます。「聴講登録」した科目のみ試験を受けることができ、単位を修得することになります。したがって、未登録や、間違った場合（登録エラー）は、たとえ授業を受けても受験資格が与えられません。

また、本学では、「単位修得の認定」について「授業科目を履修し、授業に3分の2以上出席した者には、認定の上、所定の単位を与える。」（学則第26条）と規定しています。

すなわち、**聴講登録し、受講（授業に出席）した上で試験を受け、合格点（60点以上）を得られればその科目の単位が認定される**ということになります。

なお、卒業に必要な科目で前期にしか開講されていない科目や、同様に後期にしか開講されていない科目があります。それらの科目が不合格になると、4年間で卒業できなくなるおそれがありますので十分注意してください。



※ 詳細については、「第3章 聴講登録」「第4章 成績評価」を参照してください。

[2] その他の単位の認定（第5章「1. 大谷大学履修規程」参照）

本学では「授業科目の単位の修得」の他に、以下の単位の認定を行っています。

① 入学前の既修得単位の扱い

入学前に修得済みの単位（大学、短大、高専及び専修学校の専門課程のものに限る）又は高等学校の専攻科及び中等教育学校の後期課程の専攻科の課程（修業年限が2年以上であることその他の文部科学大臣の基準を満たすものに限る）があれば、申請により卒業所要単位の一部として認定することができます。

ただし、
 { a. 40単位が上限
 b. 入学した年度当初にのみ認定

となりますので、本年度入学生で該当する希望者は、4月のオリエンテーション期間中に教務課で申請の手続きをしてください。

なお編入学生の単位については、取り扱いが異なります。詳しくは4月のオリエンテーションで説明します。

② 在学中の他の大学又は短期大学の授業科目の履修

在学中に他の大学又は短期大学の授業科目を履修し、単位を修得すれば、申請により卒業所要単位の一部として認定することができます。

ただし、
 { a. 40単位が上限
 b. ①の「入学前の既修得単位」を認定されている人は、その単位も合わせて40単位が上限
 c. 認定は単位を修得した当該学期末

となります。希望者は各学期毎に教務課で手続方法を確認してください。

ただし、指定の期日に手続きが間に合わない場合は、事前に教務課まで相談に来てください。

在学中に他の大学又は短期大学の授業科目を履修するには…

A. 「大谷大学短期大学部」との単位互換制度

開講科目表の互換科目等欄に「(短)」 「(互)」があるものは、次の内容を表します。

(短) = 本学の開講科目で短期大学部に開放する科目

(互) = 短期大学部の開講科目で本学に開放されている科目

登 録

(短) (互) の科目とも、他の科目と同様に聴講登録します。

受 講

開講科目は1つですので、本学・短期大学部両方の学生が受講する合同授業となります。

単位認定：(短) (互) 科目の単位認定の違い

(短) 科目は、本学の開講科目のため、他の科目と同様に単位認定されます。

(互) 科目は、短期大学部の開講科目のため、前ページ [2] の②での取り扱いになります。既に上限 40 単位の単位認定を受けている場合は、認定対象になりません (卒業所要単位として使えません)。

※(短) (互) 科目の単位認定については、申請の手続きは必要ありません。

※本学の学生は、「単位互換制度」で指定された科目以外の短期大学部の科目や大学院の科目を登録することはできません。ただし、短期大学部の科目を「科目等履修生」として申し込み (有料) をした場合は、この限りではありません。

B. 大学コンソーシアム京都「単位互換制度」

公益財団法人大学コンソーシアム京都の単位互換協定を締結している、他大学・短期大学の科目を受講することができます。この制度で受講した科目の単位は、前ページ [2] の②の単位として認定できます。

(手続き等の詳細については、第3章「7. 大学コンソーシアム京都「単位互換制度」」および4月のオリエンテーション期間に実施される説明会にてご確認ください。)

C. 科目等履修生制度

「科目等履修生制度」を設けている大学・短期大学の科目等履修生となり、単位を修得する方法です。この単位も原則として前ページ [2] の②の単位として認定できます。

(詳細については、各大学に確認してください。)

D. 留学制度

本学の留学規程に則って海外留学が認められた場合、留学中に海外の大学・短期大学で修得した単位は、前ページ [2] の②の単位として認定することができますので、教務課で手続方法を確認してください。

(留学制度全般に関することは GLOBAL SQUARE [慶聞館 1 階] で相談してください。)

I. 履修要領

教育研究目的

卒業の要件

単位制

単位修得
の認定

学部・学科別
卒業単位
配当表

開講科目表

時間割作成

聴講登録

共通基礎
科目外国語

現代総合科目・
自己選択科目

スポーツ
科目

国際交流
科目

コンソーシアム
単位互換制度

インターシップ

卒業研究

進級基準

試験

成績評価

GPA

大谷大学
履修規程

大谷大学
進級規程

II. 資格の取得

教職課程

保育士養成課程

大谷保育協会
保育心理士課程

学校図書館
司書教諭課程

博物館学課程

図書館学課程

真宗大谷派
教師課程

社会教育課程
[社会教育主事任用資格]

社会福祉士
国家試験
受験資格課程

社会福祉主事
[任用資格]

開講科目表

巻末
科目担当者
一覧表

4. 学部・学科別卒業単位配当表

(第5章「1. 大谷大学履修規程」第4条 参照)

学部・学科・コース別に記載された科目・単位数・履修学年は、原則として入学時のものを卒業するまで適用します。

[1] 「学部・学科別卒業単位配当表」の見方について

卒業所要単位については、各学部・学科とも以下のように大きく4つの科目群に分かれています。

- A. 共通基礎科目…全学共通で、全員が必修の科目です。
- B. 学科専門科目…各学科毎の専門の科目です。
- C. 現代総合科目…キャリア形成系・自然生命系・歴史文化系の各系から選ぶ科目です。
- D. 自己選択科目…幅広い分野から履修した科目の単位を集計する領域です。

(例)

〈文学部 真宗学科〉

区分	思想探究コース 現代臨床コース 国際コース	最低履修 単位数	履修学年 配当	摘要	
共通 基礎 科目	総合科目	人間学Ⅰ 人間学Ⅱ	4 4以上	1 2~4	
	大学導入	学びの発見	2	1	
	必修 外国語	外国語Ⅰ	英語Ⅰ 初修外国語Ⅰ	4 4	1 1
		外国語Ⅱ	英語Ⅱ 初修外国語Ⅱ	4	2 2
	選択外国語	英語 ドイツ語 フランス語 中国語 韓国・朝鮮語 等	0以上	1~4	
	小計		22以上		
学 科 専 門 科 目	演習	真宗学演習Ⅰ 真宗学演習Ⅱ 真宗学演習Ⅲ 真宗学演習Ⅳ	4 4 4 4	1 2 3 4	
	概論	真宗学概論	4以上	3~4	
		A 大乗仏教入門	2	2 仏教学科と共通	
	講義	B 親鸞の生涯と思想 親鸞思想の受容と展開 法然の生涯と思想 『教行信証』論 『教異抄』論 真宗と諸宗教 インド仏教思想論 中国仏教思想論 日本仏教思想論 現代と真宗 真宗学特殊講義	8以上	1~4 1~4 1~4 2~4 1~4 2~4 2~4 2~4 2~4 2~4	
		C 浄土教史概説 真宗教団史 近代教学史 真宗典籍研究	4以上	2~4	
		D 宗教学概説 宗教史概説	2以上	1~4	
		A 仏教文献基礎演習	4	1 仏教学科と共通	
		B 教行信証<総序・教巻>を読む 教行信証<行巻>を読む 教行信証<信巻>を読む 教行信証<証巻>を読む 教行信証<真仏土巻>を読む 教行信証<化身土巻>を読む	6以上	3~4	
		C 浄土経典を読む 維摩経を読む 法華経を読む 浄土論註を読む 観経疏を読む 選択集を読む 正信偈を読む 欧文仏典を読む 真宗学特殊演習	10以上	* 2~4 2~4 2~4 2~4 2~4 2~4 2~4 2~4	
	D フィールドワーク1 (思想探究) フィールドワーク2 (現代臨床) フィールドワーク3 (国際)	2	2~4 2~4 3~4		
	卒業研究	卒業論文	8	4 卒業年次に提出	
	小計		66以上		
	現 代 綜 合 科 目	キャリア形成系	*	4以上	*
		自然生命系	*	4以上	*
歴史文化系		*	4以上	*	
小計			12以上		
自己選択科目		0以上	*		
合計		124以上			

*は、第2章「5. 開講科目表」で、開講科目及び履修学年配当を参照のこと。

[2] 受講科目の選択について

「学部・学科別卒業単位配当表」をもとに実際の受講科目を選ぶためには、今年度開講される科目が記載されている第2章「5. 開講科目表」を参照してください。

授業の内容については「授業計画(Web シラバス)」で確認してください。

A. 共通基礎科目 は…

1. 「開講科目表」の「共通基礎科目」のページから選んでください。
2. 「人間学Ⅱ」と「選択外国語」以外は、クラス指定がされていますので、OTANI UNIPA 等で確認のうえ、指定されたクラスを登録してください。

B. 学科専門科目 は…

「開講科目表」の「○○学科」のページから選んでください。

C. 現代総合科目 は…

「開講科目表」の「現代総合科目」のページから幅広く選んでください。

D. 自己選択科目 は…

1. 「開講科目表」から幅広く選んでください。
2. 他学部・学科の「学科専門科目」から、開講科目表の右側の「他学部」「他学科」の区分欄が○の科目に限り履修できます。

[3] 履修学年配当について

「卒業単位配当表」に記されている履修学年配当の中に、「1～4」「2～4」など幅のある科目区分があります。「開講科目表」の学年配当に従って登録・履修してください。

I. 履修要領

教育研究目的

卒業の要件

単位制

単位修得
の認定

学部・学科別
卒業単位
配当表

開講科目表

時間割作成

聴講登録

共通基礎
科目外国語

現代総合科目・
自己選択科目

スポーツ
科目

国際交流
科目

コンソーシアム
単位互換制度

インターシップ

卒業研究

進級基準

試験

成績評価

GPA

規程集

大谷大学
履修規程

大谷大学
進級規程

II. 資格の取得

教職課程

保育士養成課程

大谷保育協会
保育心理士課程

学校図書館
司書教諭課程

博物館学課程

図書館学課程

真宗大谷派
教師課程

社会教育課程
【社会教育主事任用資格】

社会福祉士
国家試験
受験資格課程

社会福祉主事
【任用資格】

開講科目表

巻末
科目担当者
一覧表

〈文学部 真宗学科〉

区 分		思想探究コース 現代臨床コース 国際コース	最低履修 単位数	履修学年 配当	摘 要				
共通 基礎 科目	総合科目	人間学Ⅰ 人間学Ⅱ	4 4以上	1 2～4					
	大学導入	学びの発見	2	1					
	必修 外国語	外国語Ⅰ	英語Ⅰ 初修外国語Ⅰ	4 4	1 1				
		外国語Ⅱ	英語Ⅱ 初修外国語Ⅱ	4	2 2				
	選択外国語	英語 ドイツ語 フランス語 中国語 韓国・朝鮮語 等	0以上	1～4					
	小 計			22以上					
学 科 専 門 科 目	演 習	真宗学演習Ⅰ 真宗学演習Ⅱ 真宗学演習Ⅲ 真宗学演習Ⅳ	4 4 4 4	1 2 3 4	卒業研究指導を含む				
	概 論	真宗学概論	4以上	3～4					
	講 義	A	大乘仏教入門	2	2	仏教学科と共通			
		B	親鸞の生涯と思想 親鸞思想の受容と展開 法然の生涯と思想 『教行信証』論 『歎異抄』論	8以上	1～4 1～4 1～4 2～4 1～4	仏教学科と共通 仏教学科と共通 仏教学科と共通			
			真宗と諸宗教 インド仏教思想論 中国仏教思想論 日本仏教思想論 現代と真宗 真宗学特殊講義		2～4 2～4 2～4 2～4 2～4				
			C		浄土教史概説 真宗教団史 近代教学史 真宗典籍研究		4以上	2～4	
			D		宗教学概説 宗教史概論		2以上	1～4	
	A		仏教文献基礎演習		4		1	仏教学科と共通	
	実践研究	B	教行信証<総序・教巻>を読む 教行信証<行巻>を読む 教行信証<信巻>を読む 教行信証<証巻>を読む 教行信証<真仏土巻>を読む 教行信証<化身土巻>を読む	6以上	3～4				
		C	浄土経典を読む 維摩経を読む 法華経を読む 浄土論註を読む 観経疏を読む 選択集を読む 正信偈を読む 欧文仏典を読む 真宗学特殊演習	10以上	※ 2～4 2～4 2～4 2～4 2～4 2～4 2～4 2～4	仏教学科と共通 仏教学科と共通			
			D		フィールドワーク1 (思想探究) フィールドワーク2 (現代臨床) フィールドワーク3 (国際)		2	2～4 2～4 3～4	
			卒業研究		卒業論文		8	4	卒業年次に提出
	小 計			66以上					
	現代 総合 科目	キャリア形成系	※	4以上	※				
自然生命系		※	4以上	※					
歴史文化系		※	4以上	※					
小 計			12以上						
自己選択科目			0以上	※					
合 計			124以上						

※は、第2章「5. 開講科目表」で、開講科目及び履修学年配当を参照のこと。

〈文学部 仏教学科〉

区 分		現代仏教コース 仏教思想コース	最低履修 単位数	履修学年 配当	摘 要	
共通 基礎 科目	総合科目	人間学Ⅰ 人間学Ⅱ	4 4以上	1 2～4		
	大学導入	学びの発見	2	1		
	必修 外国語	外国語Ⅰ	英語Ⅰ 初修外国語Ⅰ	4 4	1 1	
		外国語Ⅱ	英語Ⅱ 初修外国語Ⅱ	4	2 2	
	選択外国語	英語 ドイツ語 フランス語 中国語 韓国・朝鮮語 等	0以上	1～4		
	小 計			22以上		
学 科 専 門 科 目	演 習	仏教学演習Ⅰ 仏教学演習Ⅱ 仏教学演習Ⅲ 仏教学演習Ⅳ	4 4 4 4	1 2 3 4	卒業研究指導を含む	
	概 論	仏教学概論	4以上	1～4		
	講 義	A	大乘仏教入門	2	2	
		B	インド仏教思想論 中国仏教思想論 日本仏教思想論 中国仏教史 日本仏教史 浄土教史概説 宗教史	10以上	2～4 2～4 2～4 1～4 1～4 2～4 3～4	歴史学科と共通 歴史学科と共通 真宗学科と共通 哲学科と共通
		C	インド学 現代仏教論 現代と真宗 死生学 生命倫理 人間関係学 地域仏教論 仏教学特殊講義	8以上	2～4 2～4 2～4 1～4 1～4 1～4 2～4 ※	真宗学科と共通 哲学科と共通 哲学科と共通 哲学科と共通
	実践研究	A	仏教文献基礎演習	4	1	真宗学科と共通
		B	現代仏教演習 地域仏教演習 初期仏典を読む 浄土経典を読む 維摩経を読む 法華経を読む 欧文仏典を読む 仏教学特殊演習	12以上	2～4 2～4 ※ 2～4 2～4 2～4 2～4 2～4	真宗学科と共通 真宗学科と共通
		C	臨床フィールドワーク パーリ語 サンスクリット語 古典チベット語	2以上	3～4 2～4 1～4 2～4	
		卒業研究	卒業論文	8	4	卒業年次に提出
	小 計			66以上		
	現代 総合 科目	キャリア形成系	※	4以上	※	
自然生命系		※	4以上	※		
歴史文化系		※	4以上	※		
小 計			12以上			
自己選択科目			0以上	※		
合 計			124以上			

※は、第2章「5. 開講科目表」で、開講科目及び履修学年配当を参照のこと。

I. 履修要領

教育研究目的

卒業の要件

単位制

単位修得
の認定

学部・学科別
卒業単位
配当表

開講科目表

時間割作成

聴講登録

共通基礎
科目外国語

現代総合科目・
自己選択科目

スポーツ
科目

国際交流
科目

コンソーシアム
単位互換制度

インターシップ

卒業研究

進級基準

試験

成績評価

GPA

大谷大学
履修規程

大谷大学
進級規程

II. 資格の取得

教職課程

保育士養成課程

大谷保育協会
保育心理士課程

学校図書館
司書教諭課程

博物館学課程

図書館学課程

真宗大谷派
教師課程

社会教育課程
【社会教育主事任用資格】

社会福祉士
国家試験

受験資格課程

社会福祉主事
【任用資格】

開講科目表

科目担当者
一覧表

〈文学部 哲学科〉

区 分		哲学・西洋思想コース 心理学・人間関係学コース 倫理学・公共哲学コース 宗教学・死生学コース	最低履修 単位数	履修学年 配当	摘 要		
共通 基礎 科目	総合科目	人間学Ⅰ 人間学Ⅱ	4 4以上	1 2～4			
	大学導入	学びの発見	2	1			
	必修 外国語	外国語Ⅰ	英語Ⅰ 初修外国語Ⅰ	4 4	1 1		
		外国語Ⅱ	英語Ⅱ 初修外国語Ⅱ	4	2 2		
	選択外国語	英語 ドイツ語 フランス語 中国語 韓国・朝鮮語 等	0以上	1～4			
	小 計			22以上			
学 科 専 門 科 目	演 習	哲学科演習Ⅰ	4	1	卒業研究指導を含む		
		哲学科演習Ⅱ	4	2			
		哲学科演習Ⅲ	4	3			
		哲学科演習Ⅳ	4	4			
	概 論	哲学概論 倫理学概論 宗教学概論	8以上	2～4			
	講 義	A	西洋哲学史（古代） 西洋哲学史（中世） 西洋哲学史（近世）	6以上	2～4		
			B	日本哲学 心理学入門 人間関係学 公共哲学 死生学 生命倫理 宗教史 キリスト教学 哲学科特殊講義	14以上	1～4 1～4 1～4 1～4 1～4 3～4 1～4 2～4	
				C	人文地理学1・2 世界地誌学1・2 法学概論 政治学概論 国際関係論 国際政治学	2以上	2～4 2～4 1～4 1～4 3～4 3～4
	実践研究	A			批判的思考	2	1
		B	古典ギリシャ語入門 ギリシャ哲学文献を読む 英米哲学文献を読む ドイツ哲学文献を読む フランス哲学文献を読む 哲学科特殊演習	10以上	1～4 2～4 2～4 2～4 2～4 ※		
卒業研究	卒業論文		8	4	卒業年次に提出		
小 計				66以上			
現代 総合 科目	キャリア形成系	※	4以上	※			
	自然生命系	※	4以上	※			
	歴史文化系	※	4以上	※			
	小 計			12以上			
自己選択科目			0以上	※			
合 計			124以上				

※は、第2章「5. 開講科目表」で、開講科目及び履修学年配当を参照のこと。

〈文学部 歴史学科〉

区 分		日本史コース・世界史コース 歴史ミュージアムコース・京都探究コース	最低履修 単位数	履修学年 配当	摘 要	
共通 基礎 科目	総合科目	人間学Ⅰ 人間学Ⅱ	4 4以上	1 2～4		
	大学導入	学びの発見	2	1		
	必修 外国語	外国語Ⅰ	英語Ⅰ 初修外国語Ⅰ	4 4	1 1	
		外国語Ⅱ	英語Ⅱ 初修外国語Ⅱ	4	2 2	
	選択外国語	英語 ドイツ語 フランス語 中国語 韓国・朝鮮語 等	0以上	1～4		
	小 計			22以上		
学 科 専 門 科 目	演 習	歴史学演習Ⅰ 歴史学演習Ⅱ 歴史学演習Ⅲ 歴史学演習Ⅳ	4 4 4 4	1 2 3 4	卒業研究指導を含む	
	概 論	日本史学概論 東洋史学概論 西洋史学概論 史学概論	8以上	2～4 2～4 2～4 1～2		
	講 義	A	日本古代史講義 日本中世史講義 日本近世史講義 日本近現代史講義 中国古代史講義 中国中世史講義 中国近世・近代史講義 西洋史講義 歴史学特殊講義	10以上	2～4 2～4 2～4 2～4 2～4 3～4 2～4 2～4 2～4	
		B	日本民俗学 中国仏教史 日本仏教史 真宗史 文化交流史 京都の歴史と文化 歴史地理学 考古学 美術史 古文書学概論 建築史 博物館概論 博物館資料論 文化財概論 文化財保存科学論 博物館教育論 京都探究講義	8以上	1～4 1～4 1～4 2～4 2～4 1～4 2～4 2～4 2～4 1～4 1～4 1～4 1～4 1～4 2 2～4	
		C	人文地理学3・4 世界地誌学3・4 自然地理学 経済学概論 国際経済学 社会学総論	0以上	2～4 2～4 1～4 1～4 3～4 1～4	
	実践研究	A	歴史学基礎演習	4	1	
		B	日本古代史料を読む 日本中世史料を読む 日本近世史料を読む 日本近現代史料を読む 中国古代・中世史料を読む 中国近世・近代史料を読む 交流史料を読む 西洋史文献を読む 古文書解読法 古文書演習 漢文訓読法 歴史学特殊演習 文化財調査演習 展示実習 博物館展示論 京都探究調査演習	12以上	2～4 2～4 2～4 2～4 2～4 2～4 2～4 2～4 1～4 2～4 1～4 2～4 2～4 4 3 2～4	
	卒業研究		卒業論文・卒業制作	8	4	卒業年次に提出
	小 計			66以上		
	現代 総合 科目	キャリア形成系	※	4以上	※	
自然生命系		※	4以上	※		
歴史文化系		※	4以上	※		
小 計			12以上			
自己選択科目			0以上	※		
合 計			124以上			

※は、第2章「5. 開講科目表」で、開講科目及び履修学年配当を参照のこと。

I. 履修要領

教育研究目的

〈文学部 文学科〉

区 分		日本文学コース 現代文芸コース	最低履修 単位数	履修学年 配当	摘 要	
共通 基礎 科目	総合科目		人間学Ⅰ 人間学Ⅱ	4 4以上	1 2～4	
	大学導入		学びの発見	2	1	
	必修 外国語	外国語Ⅰ	英語Ⅰ 初修外国語Ⅰ	4 4	1 1	
		外国語Ⅱ	英語Ⅱ 初修外国語Ⅱ	4	2 2	
	選択外国語		英語 ドイツ語 フランス語 中国語 韓国・朝鮮語 等	0以上	1～4	
	小 計			22以上		
	学 科 専 門 科 目	演 習		文学科演習Ⅰ 文学科演習Ⅱ 文学科演習Ⅲ 文学科演習Ⅳ	4 4 4 4	1 2 3 4
概 論		国文学概論 国語学概論 中国文学概論 現代文芸概論	8以上	1～4		
講 義		A	日本文学史 国文法講義 中国語学講義 文藝塾講義 書道	8以上	1～4	
		B	古典文学 近現代文学 文章表現学 中国文学史 中国思想史 中国文献学 アメリカ文学講義 イギリス文学講義 ドイツ近現代文学	12以上	2～4	国際文化学科と共通 国際文化学科と共通 国際文化学科と共通
		C	仏教文学特殊講義 中国文学特殊講義		3～4	
実践研究		A	文学鑑賞 漢文訓読演習 文藝塾実践演習Ⅰ		1～4	
		B	古典文学講読 近現代文学講読 中国文学講読 言語技術演習 文学教材講読 文藝塾実践演習Ⅱ	14以上	2～4	
		C	仏教文学特殊演習 中国文学特殊演習		3～4	
卒業研究		卒業論文・卒業制作	8	4	卒業年次に提出	
小 計			66以上			
現代 総合 科目		キャリア形成系	※	4以上	※	
		自然生命系	※	4以上	※	
		歴史文化系	※	4以上	※	
	小 計			12以上		
自己選択科目			0以上	※		
合 計			124以上			

※は、第2章「5. 開講科目表」で、開講科目及び履修学年配当を参照のこと。

卒業の要件
単位制
単位修得
の認定
学部・学科別
卒業単位
配当表

開講科目表

時間制作成

聴講登録

共通基礎
科目外国語

現代総合科目・
自己選択科目

スポーツ
科目

国際交流
科目

コンソーシアム
単位互換制度

インターシップ

卒業研究

進級基準

試験

成績評価

GPA

大谷大学
履修規程

大谷大学
進級規程

II. 資格の取得

教職課程

保育士養成課程

大谷保育協会
保育心理士課程

学校図書館
司書教諭課程

博物館学課程

図書館学課程

真宗大谷派
教師課程

社会教育課程
【社会教育主事任用資格】

社会福祉士
国家試験
受験資格課程

社会福祉主事
【任用資格】

開講科目表

巻末
科目担当者
一覧表

〈社会学部 現代社会学科〉

区 分		現代社会学コース	最低履修 単位数	履修学年 配当	摘 要	
共通 基礎 科目	総合科目	人間学Ⅰ 人間学Ⅱ	4 4以上	1 2～4		
	大学導入	学びの発見	2	1		
	必修 外国語	外国語Ⅰ	英語Ⅰ 初修外国語Ⅰ	4 0以上	1 1	
		外国語Ⅱ	英語Ⅱ 初修外国語Ⅱ	4 0以上	2 2	
	選択外国語	英語 ドイツ語 フランス語 中国語 韓国・朝鮮語 等	0以上	1～4		
	小 計			18以上		
	学 科 専 門 科 目	演 習	社会学演習Ⅰ	4	1	卒業研究指導を含む
社会学演習Ⅱ			4	2		
社会学演習Ⅲ			4	3		
社会学演習Ⅳ			4	4		
概 論		仏教社会論 社会学概論 現代社会基礎 社会学入門	8	2 2 1 1		
		現代社会論 地方自治論 人間関係論 犯罪と社会 心理学基礎 現代文化論 現代家族論 文化社会学 ジェンダーと社会 観光社会学 比較心理学 宗教と社会 社会心理学 大衆文化論 現代社会とコミュニケーション スポーツと社会 教育社会学 消費社会論 個人と公共 文化人類学 社会問題論 アジア社会論 地域社会論 情報と倫理 地域福祉論 情報社会論 環境社会学 情報技術論 グローバル化論 社会思想史 市民活動論 社会学史 ボランティア論 社会調査論	40以上	※		
実践研究		A	社会統計基礎 フィールドワーク技法基礎	4	1	
		B	フィールドワーク入門 社会学文献講読(公共社会) 探究フィールドワーク 社会学文献講読(現代文化) ソーシャル・ドキュメント分析 エスノグラフィ講読・作成 社会統計演習 文化人類学文献講読 メディア・コミュニケーション分析 社会情報学文献講読 社会学文献講読(人間関係) 社会心理学文献講読	16以上	※	
			卒業研究	卒業論文・卒業研究	8	4
		小 計			92以上	
現代 総合 科目	キャリア形成系	※	0以上	※		
	自然生命系	※	0以上	※		
	歴史文化系	※	0以上	※		
	小 計			6以上		
自己選択科目			0以上	※		
合 計			124以上			

[斜体はコミュニティデザイン学科と共通] ※は、第2章「5. 開講科目表」で、開講科目及び履修学年配当を参照のこと。

I. 履修要領

教育研究目的

〈社会学部 コミュニティデザイン学科〉

区分	地域政策学コース 社会福祉学コース	最低履修 単位数	履修学年 配当	摘要	
共通 基礎 科目	総合科目	人間学Ⅰ 人間学Ⅱ	4 4以上	1 2～4	
	大学導入	学びの発見	2	1	
	必修 外国語	外国語Ⅰ	英語Ⅰ 初修外国語Ⅰ	4 0以上	1 1
		外国語Ⅱ	英語Ⅱ 初修外国語Ⅱ	4 0以上	2 2
	選択外国語	英語 ドイツ語 フランス語 中国語 韓国・朝鮮語 等	0以上	1～4	
	小計		18以上		
学 科 専 門 科 目	演習	コミュニティデザイン演習Ⅰ コミュニティデザイン演習Ⅱ コミュニティデザイン演習Ⅲ コミュニティデザイン演習Ⅳ	4 4 4 4	1 2 3 4	卒業研究指導を含む
	概論	A	仏教社会論 社会学概論 コミュニティデザイン概論	6	2 2 1
		B	公共政策概論 社会情報学概論 現代社会と福祉	4以上	1
	講義	ボランティア論 情報技術論 現代社会論 コミュニティプランニング論 生活問題論 情報マーケティング論 社会政策論 社会福祉発達史 メディアと市民社会 災害と防災 市民活動論 ターミナルケア論 現代社会とコミュニケーション 高齢者福祉 社会調査論 障害者福祉 宗教と社会 児童福祉 情報と倫理 社会保障論 情報社会論 地域福祉論 地域と経済 心理学 非営利組織マネジメント論 社会学 コミュニティ形成論 医学一般 ソーシャルビジネス論 社会福祉調査論 地域と環境 公的扶助論 犯罪と社会 司法福祉論 地方自治論 社会福祉施設経営論 地域社会論 保健医療サービス論 現代家族論 権利擁護と成年後見制度 グローバルイゼーション論 相談援助の基盤と専門職 社会問題論 相談援助の理論と方法	38以上	※	
	実践研究	プロジェクト研究入門Ⅰ・Ⅱ プロジェクト研究実践Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ 社会福祉援助技術演習1・2・3・4・5 社会福祉援助技術現場実習指導Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ 社会福祉援助技術現場実習 社会福祉学特殊演習Ⅰ・Ⅱ	20以上	※	
	卒業研究	卒業論文・卒業研究・卒業制作	8	4	卒業年次に提出
	小計		92以上		
	現代 総合 科目	キャリア形成系	※	0以上	※
		自然生命系	※	0以上	※
		歴史文化系	※	0以上	※
小計			6以上		
自己選択科目			0以上	※	
合計			124以上		

[斜体は現代社会学部と共通]

※は、第2章「5. 開講科目表」で、開講科目及び履修学年配当を参照のこと。

卒業の要件

単位制

単位修得
の認定

学部・学科別
卒業単位
配当表

開講科目表

時間制作成

聴講登録

共通基礎
科目外国語

現代総合科目・
自己選択科目

スポーツ
科目

国際交流
科目

コンソーシアム
単位互換制度

インターシップ

卒業研究

進級基準

試験

成績評価

GPA

大谷大学
履修規程

大谷大学
進級規程

II. 資格の取得

教職課程

保育士養成課程

大谷保育協会
保育心理士課程

学校図書館
司書教諭課程

博物館学課程

図書館学課程

真宗大谷派
教師課程

社会教育課程
【社会教育主事任用資格】

社会福祉士
国家試験
受験資格課程

社会福祉主事
【任用資格】

開講科目表

巻末
科目担当者
一覧表

〈教育学部 教育学科〉 初等教育コース

区 分	初等教育コース			最低履修単位数	履修学年配当	摘 要
共通基礎科目	総合科目		人間学Ⅰ	4	1	
			人間学Ⅱ	4以上	2～4	
	大学導入		学びの発見	2	1	
	必修 外国語	外国語Ⅰ	英語Ⅰ	4	1	
			初修外国語Ⅰ	0以上	1	
	外国語Ⅱ	英語Ⅱ	4	2		
	初修外国語Ⅱ	0以上	2			
選択外国語		英語 ドイツ語 フランス語 中国語 韓国・朝鮮語 等	0以上	1～4		
小 計			18以上			
学 科 専 門 科 目	演 習		小学校教育学演習Ⅰ	4	1	
			小学校教育学演習Ⅱ	4	2	
			小学校教育学演習Ⅲ	4	3	
			小学校教育学演習Ⅳ	4	4	卒業研究指導を含む
	概 論		教育原論 (小)	4	1	
			仏教と教育 (初等)		2	
	講 義	A	教育学概論Ⅰ 特別支援教育概論(小) 教育人間学Ⅱ	6以上	※	
		B	教職入門(小) こども教育史Ⅰ 教室の心理学 教育心理学(小) こども教育史Ⅱ 障害のある子どもたち(初等) 発達心理学(小) 探求ゼミ(算数)Ⅰ 障害児の教育(初等) 教育社会学(小) 探求ゼミ(算数)Ⅱ 特別支援教育実践論(初等) 教育行財政学(小) 探求ゼミ(算数)Ⅲ 防災・安全教育(初等) 教育課程論(小) 探求ゼミ(理科)Ⅰ ICT教育 特別活動論(小) 探求ゼミ(理科)Ⅱ 生涯学習論 教育方法論(小) 探求ゼミ(理科)Ⅲ 総合的な学習の 生徒・進路指導論(小) 授業心理学 時間の指導法(小) 教育相談(小) こどもの描画分析	30以上	※	
	実 践 研 究	A	実践体験活動演習(小)Ⅰ 実践体験活動演習(小)Ⅱ	4	1	
		B	初等科教育法(国語) 教科(国語) 教育実習(小)			
初等科教育法(社会) 教科(社会) 教職実践演習(小)						
初等科教育法(算数) 教科(算数) 小学校プログラミング演習						
初等科教育法(理科) 教科(理科) 音楽実技Ⅰ-3						
初等科教育法(生活) 教科(生活) 音楽実技Ⅱ-3						
初等科教育法(音楽) 教科(音楽) 運動会実践演習			18以上	※		
初等科教育法(図画工作) 教科(図画工作) おおたにキッズキャンパス演習Ⅰ						
初等科教育法(家庭) 教科(家庭) おおたにキッズキャンパス演習Ⅱ						
初等科教育法(体育) 教科(体育)						
初等科教育法(外国語活動) 教科(外国語活動) 道徳教育の理論と方法(小) 教育実習指導(小)						
卒業研究		卒業論文・卒業研究・卒業制作	8	4	卒業年次に提出	
小 計			86以上			
現代総合科目	キャリア形成系	※	0以上	※		
	自然生命系	※	0以上	※		
	歴史文化系	※	0以上	※		
	小 計			6以上		
自己選択科目			0以上	※		
合 計			124以上			

[斜体は幼児教育コースと共通]

※は、第2章「5. 開講科目表」で、開講科目及び履修学年配当を参照のこと。

I. 履修要領

教育研究目的

卒業の要件

単位制

単位修得
の認定

学部・学科別
卒業単位
配当表

開講科目表

時間制作成

聴講登録

共通基礎
科目外国語

現代総合科目・
自己選択科目

スポーツ
科目

国際交流
科目

コンソーシアム
単位互換制度

インターシップ

卒業研究

進級基準

試験

成績評価

GPA

大谷大学
履修規程

大谷大学
進級規程

II. 資格の取得

教職課程

保育士養成課程

大谷保育協会
保育心理士課程

学校図書館
司書教諭課程

博物館学課程

図書館学課程

真宗大谷派
教師課程

社会教育課程
【社会教育主事任用資格】

社会福祉士
国家試験
受験資格課程

社会福祉主事
【任用資格】

開講科目表

科目担当者
一覧表

〈教育学部 教育学科〉 幼児教育コース

区 分	幼児教育コース			最低履修単位数	履修学年配当	摘 要	
共通基礎科目	総合科目		人間学Ⅰ	4	1		
			人間学Ⅱ	4以上	2～4		
	大学導入		学びの発見	2	1		
	必修外国語	外国語Ⅰ	英語Ⅰ 初修外国語Ⅰ	4 0以上	1 1		
		外国語Ⅱ	英語Ⅱ 初修外国語Ⅱ	4 0以上	2 2		
	選択外国語		英語 ドイツ語 フランス語 中国語 韓国・朝鮮語 等	0以上	1～4		
	小 計			18以上			
学 科 専 門 科 目	演 習		幼児教育演習Ⅰ 幼児教育演習Ⅱ 幼児教育演習Ⅲ 幼児教育演習Ⅳ	4 4 4 4	1 2 3 4	卒業研究指導を含む	
	概 論		教育原論 (幼) 仏教と教育 (初等)	4	2		
	講 義	A	教育人間学Ⅰ 発達心理学 (幼) 保育原理Ⅰ 教育人間学Ⅱ 特別支援教育概論 (幼)	6以上	※		
		B	教職入門 (幼) 教育心理学 (幼) 社会福祉 教育学概論Ⅰ 授業心理学 児童文化 教育学概論Ⅱ こどもの描画分析 社会的養護 こども教育史Ⅰ 教室の心理学 障害のある子どもたち (初等) こども教育史Ⅱ 音楽理論 特別支援教育実践論 (初等) 教育課程論 (幼) 教育相談 (幼) (幼児理解を含む) 防災・安全教育 (初等) 教育方法論 (幼) 保育原理Ⅱ 生涯学習論 教育社会学 (幼) 児童家庭福祉	28以上	※		
	実 践 研 究	A	実践体験活動演習 (幼)Ⅰ 実践体験活動演習 (幼)Ⅱ 運動会実践演習 おおたにキッズキャンパス演習Ⅲ	2 2以上	1 2		
		B	教育実習 (幼) 保育内容 (表現) の理論と方法 図画工作 (幼)Ⅱ 教育実習指導 (幼) 国語 (幼) 図画工作 (幼)Ⅲ 教職実践演習 (幼) 算数 (幼) 言語表現 保育内容総論 体育 (幼) 野外活動 保育内容 (健康) の理論と方法 音楽 (幼)Ⅰ 総合表現演習Ⅰ 保育内容 (人間関係) の理論と方法 音楽 (幼)Ⅱ 総合表現演習Ⅱ 保育内容 (環境) の理論と方法Ⅰ 音楽実技Ⅰ-1・2 運動遊び指導法 保育内容 (環境) の理論と方法Ⅱ 音楽実技Ⅱ-1・2 障害児保育 保育内容 (言葉) の理論と方法Ⅰ 音楽 (幼)Ⅲ 相談援助 保育内容 (言葉) の理論と方法Ⅱ 図画工作 (幼)Ⅰ	20以上	※		
	卒業研究		卒業論文・卒業研究・卒業制作	8	4	卒業年次に提出	
	小 計			86以上			
	現代総合科目	キャリア形成系		※	0以上	※	
		自然生命系		※	0以上	※	
歴史文化系		※	0以上	※			
小 計			6以上				
自己選択科目			0以上	※			
合 計			124以上				

[斜体は初等教育コースと共通]

※は、第2章「5. 開講科目表」で、開講科目及び履修学年配当を参照のこと。

〈国際学部 国際文化学科〉 英語コミュニケーションコース

区 分	英語コミュニケーションコース	最低履修 単位数	履修学年 配当	摘 要		
共通 基礎 科目	総合科目	人間学Ⅰ 人間学Ⅱ	4 4以上	1 2～4		
	大学導入	学びの発見	2	1		
	必修 外国語	外国語Ⅰ	英語Ⅰ 初修外国語Ⅰ	4 4	1 1	
		外国語Ⅱ	英語Ⅱ 初修外国語Ⅱ	4 4	2 2	
	選択外国語	英語 ドイツ語 フランス語 中国語 韓国・朝鮮語 等	8以上	1～4	「インテンシブ英会話(中級)1・2」 の履修を原則とする	
	小 計		30以上			
学 科 専 門 科 目	演 習	国際文化演習Ⅰ	4	1	卒業研究指導を含む	
		国際文化演習Ⅱ	4	2		
		国際文化演習Ⅲ	4	3		
		国際文化演習Ⅳ	4	4		
	概 論	国際文化概論	2	1		
		国際言語概論	2	1		
	講 義	比較文化講義	18以上	1～4	歴史学科と共通 歴史学科と共通 哲学科と共通 哲学科と共通	
		英米の文化		※		
		英語学概論		1～4		
		英語のしくみ		1～4		
		ヨーロッパの文化		1～2		
		東アジアの文化		1～2		
		日本ポップカルチャー論		3～4		
		国際文化特殊講義		3～4		
アメリカ文学講義		2～4				
イギリス文学講義		2～4				
英文学概論		1～4				
ドイツ文学講義		3～4				
越境するアジアの文化	3～4					
現代朝鮮半島事情	1～4					
世界の宗教と文化	2～4					
西洋史講義	2～4					
フランス文学講義	3～4					
京都の歴史と文化	1～4					
グローバル・ボランティア論	1					
グローバル・キャリア論	1～3					
国際関係論	3～4					
キリスト教学	1～4					
実践研究	A	英語基礎演習	4	1		
	B	実践文化演習 a (フィールドラーニング)	12以上	2	歴史学科と共通	
		実践文化演習 b (語学集中 ドイツ語)		2		
		実践文化演習 c (語学集中 フランス語)		2		
		実践文化演習 d (語学集中 中国語)		2		
		実践文化演習 e (語学集中 韓国・朝鮮語)		2		
		実践文化演習 f (カナダ語学研修)		2		
		実践文化演習 g (中国語学研修1)		2		
		実践文化演習 h (中国語学研修2)		2		
		実践文化演習 i (韓国語学研修)		2		
実践文化演習 j (ヨーロッパ文化研修)		2				
実践文化演習 k (インド文化研修)	2					
実践文化演習 l (中国文化研修)	2					
English Workshop & Camp	2～3					
English Workshop	2～4					
C	Pop Culture in English	8以上	2～3	歴史学科と共通		
	World News		2～3			
	Global Communication		2～3			
	Teaching English to Children		2～3			
	言語文化演習 (英語)		3～4			
	言語文化演習 (ドイツ語)		3～4			
	言語文化演習 (フランス語)		3～4			
	言語文化演習 (中国語)		3～4			
	言語文化演習 (韓国・朝鮮語)		3～4			
	表現文化演習		2～4			
西洋史文献を読む	2～4					
卒業研究	卒業論文・卒業研究・卒業制作	8	4	卒業年次に提出		
小 計		70以上				
現代 総合 科目	キャリア形成系	※	4以上	※		
	自然生命系	※	4以上	※		
	歴史文化系	※	4以上	※		
小 計		12以上				
自己選択科目		0以上	※			
合 計		124以上				

※は、第2章「5. 開講科目表」で、開講科目及び履修学年配当を参照のこと。

I. 履修要領

教育研究目的

卒業の要件

単位制

単位修得
の認定

学部・学科別
卒業単位
配当表

開講科目表

時間制作成

聴講登録

共通基礎
科目外国語

現代総合科目・
自己選択科目

スポーツ
科目

国際交流
科目

コンソーシアム
単位互換制度

インターシップ

卒業研究

進級基準

試験

成績評価

GPA

規程集

大谷大学
履修規程

大谷大学
進級規程

II. 資格の取得

教職課程

保育士養成課程

大谷保育協会
保育心理士課程

学校図書館
司書教諭課程

博物館学課程

図書館学課程

真宗大谷派
教師課程

社会教育課程
【社会教育主事任用資格】

社会福祉士
国家試験
受験資格課程

社会福祉主事
【任用資格】

開講科目表

科目担当者
一覧表

〈国際学部 国際文化学科〉 欧米文化コース・アジア文化コース

区分	欧米文化コース アジア文化コース	最低履修 単位数	履修学年 配当	摘要	
共通 基礎 科目	総合科目	人間学Ⅰ 人間学Ⅱ	4 4以上	1 2～4	
	大学導入	学びの発見	2	1	
	必修 外国語	外国語Ⅰ	英語Ⅰ 初修外国語Ⅰ	4 4	1 1
		外国語Ⅱ	英語Ⅱ 初修外国語Ⅱ	4 4	2 2
	選択外国語	英語 ドイツ語 フランス語 中国語 韓国・朝鮮語 等	2以上	1～4	
	小計		24以上		
学 科 専 門 科 目	演習	国際文化演習Ⅰ	4	1	
		国際文化演習Ⅱ	4	2	
		国際文化演習Ⅲ	4	3	
		国際文化演習Ⅳ	4	4	
	概論	国際文化概論	2	1	
		国際言語概論	2	1	
	講義	比較文化講義		1～4	
		英米の文化		※	
		英語学概論		1～4	
		英語のしくみ		1～4	
		ヨーロッパの文化		1～2	
		東アジアの文化		1～2	
		日本ポップカルチャー論		3～4	
		国際文化特殊講義		3～4	
アメリカ文学講義			2～4		
イギリス文学講義			2～4		
英文学概論			1～4		
ドイツ文学講義			3～4		
越境するアジアの文化		3～4			
現代朝鮮半島事情		1～4			
世界の宗教と文化		2～4			
西洋史講義		2～4			
フランス文学講義		3～4			
京都の歴史と文化		1～4			
グローバル・ボランティア論		1			
グローバル・キャリア論		1～3			
国際関係論		3～4			
キリスト教学		1～4			
実 践 研 究	A	英語基礎演習	4	1	
	B	実践文化演習 a (フィールドラーニング)		2	
		実践文化演習 b (語学集中 ドイツ語)		2	
		実践文化演習 c (語学集中 フランス語)		2	
		実践文化演習 d (語学集中 中国語)		2	
		実践文化演習 e (語学集中 韓国・朝鮮語)		2	
		実践文化演習 f (カナダ語学研修)		2	
		実践文化演習 g (中国語学研修 1)		2	
		実践文化演習 h (中国語学研修 2)		2	
		実践文化演習 i (韓国語学研修)		2	
		実践文化演習 j (ヨーロッパ文化研修)		2	
	実践文化演習 k (インド文化研修)		2		
	実践文化演習 l (中国文化研修)		2		
English Workshop & Camp		2～3			
English Workshop		2～4			
C	Pop Culture in English		2～3		
	World News		2～3		
	Global Communication		2～3		
	Teaching English to Children		2～3		
	言語文化演習 (英語)		3～4		
	言語文化演習 (ドイツ語)		3～4		
	言語文化演習 (フランス語)		3～4		
言語文化演習 (中国語)		3～4			
言語文化演習 (韓国・朝鮮語)		3～4			
表現文化演習		2～4			
西洋史文献を読む		2～4			
卒業研究	卒業論文・卒業研究・卒業制作	8	4		
小計		66以上			
現 代 総 合 科 目	キャリア形成系	※	4以上	※	
	自然生命系	※	4以上	※	
	歴史文化系	※	4以上	※	
	小計		12以上		
自己選択科目			0以上	※	
合計			124以上		

※は、第2章「5. 開講科目表」で、開講科目及び履修学年配当を参照のこと。

1. 時間割作成

[1] 時間割作成について

- ① 第2章「4. 学部・学科別卒業単位配当表」、第4章「1. 進級基準」を確認のうえ、履修計画を立てます。
- ② 各学年の必修科目を選びます。
- ③ 卒業・進級、資格（諸課程）の取得等で必要な科目を選びます。
 ※卒業所要の科目のうち、諸課程で必要としている科目と同じ科目があれば、下記のように1科目でいずれの所要も充たすことができます。
 (例)

哲学概論(2単位)

卒業単位(2単位)
教職課程(2単位)
大谷派教師課程(2単位)
- ④ 科目によって、学年や所属学科等による受講の制限があります。
 確認のため、第2章「5. 開講科目表」、「授業計画(Web シラバス)」や OTANI UNIPA を見てください。
- ⑤ 卒業所要について、1年間に40単位前後（諸課程科目を除く）を目安として、時間割を作成してください。
- ⑥ 受講する科目が選択できたら、専門の学問を進めていくうえでの指導が必要になりますので、指導教員の指導を必ず受けて、聴講登録してください。

[2] 受講生数制限をする科目について

科目によっては、受講生数制限をします。そのような科目については、以下の方法で抽選を実施します。

- ① **Web 聴講登録期間後の抽選**
 3月30日（火）～4月5日（月）のWeb 聴講登録期間に受講者多数のため教室定員がオーバーした科目
- ② **第1回目の授業での抽選**
 第1回目の授業時に教室定員がオーバーした科目
- ③ **Web 修正登録期間後の抽選**
 上記以外で、4月のWeb 修正登録期間後に教室定員がオーバーした科目

	対象科目	抽選方法
① 期間後の抽選 Web聴講登録	Web 聴講登録期間に受講希望者が多数となり教室定員がオーバーした科目	Web 聴講登録期間に必ず科目の登録を行ってください。 教室定員がオーバーした場合は、登録者の中から抽選を行います。抽選となった場合は、 4月6日（火） 以降に OTANI UNIPA で可否を確認してください。
② 授業での抽選 第1回目の	第1回目の授業時に教室定員がオーバーした科目	その場で「受講カード」を集め、カード提出者について抽選を行い、翌日に結果を掲示発表します。抽選にもれた場合には、Web 修正登録期間に代替科目を登録してください。
③ 期間後の抽選 Web修正登録	上記以外	随時、掲示と授業時の指示により処置を伝えますので注意してください。 特に後期科目の定員オーバーについては、前期中に抽選を行い、結果を掲示発表します。 抽選にもれた場合には、後期の修正登録期間に代替科目を登録してください。

I. 履修要領

教育研究目的

卒業の要件
単位制
単位修得の認定
学部・学科別卒業単位
配当表
開講科目表

時間割作成

聴講登録
共通基礎
科目外国語
現代総合科目・
自己選択科目
スポーツ
科目
国際交流
科目
コンソーシアム
単位互換制度
インターシップ

卒業研究

進級基準

試験
成績評価

GPA

規程集
大谷大学
履修規程
大谷大学
進級規程

II. 資格の取得

教職課程

保育士養成課程

大谷保育協会
保育心理士課程

学校図書館
司書教諭課程

博物館学課程

図書館学課程

真宗大谷派
教師課程

社会教育課程
【社会教育主事任用資格】

社会福祉士
国家試験
受験資格課程

社会福祉主事
【任用資格】

開講科目表

巻末
科目担当者
一覧表

[3] 学年ごとの注意事項

本学では、学年ごとに必修科目があります。自分がどの科目を今年度履修しなくてはならないか、以下の表および第2章「4. 学部・学科別卒業単位配当表」で確認のうえ、必ず聴講登録してください。

クラス指定はクラス別懇談会で配布するクラス配当表（第1学年時のみ）、掲示板で発表します。各自で指定されているクラスを必ず確認してください。なお、クラス指定科目は、指定のクラス以外を受講できません。ただし、卒業の見込みがない場合は教務課に申し出てください。

第1学年の必修科目

学部 / 学科	科目名		単位数	注 意
全学共通	総合科目	人間学Ⅰ	4	この科目の担当者が副指導教員になります。
	大学導入	学びの発見	2	
	英語Ⅰ	英語	4	英語プレイスメント（クラス分け）テストの結果をもとにクラス配当を行います。クラス分けの結果は、授業開始日までに教務課掲示板で発表します。
	初修外国語Ⅰ	ドイツ語、フランス語、中国語、韓国・朝鮮語	4	社会学部・教育学部の学生は、入学前に希望した場合にのみ履修が可能です。 対象の学生のみクラス指定を行っています。
	演習	演習Ⅰ	4	この科目の担当者が指導教員となります。
文 / 真宗学科	実践研究	仏教文献基礎演習	4	
文 / 仏教学科	実践研究	仏教文献基礎演習	4	
文 / 哲学科	実践研究	批判的思考	2	
文 / 歴史学科	実践研究	歴史学基礎演習	4	
社 / 現代社会学科	概論	現代社会基礎	2	
		社会学入門	2	
	実践研究	社会統計基礎	2	
社 / コミュニティ・デザイン学科	概論	コミュニティデザイン概論	2	
	実践研究	プロジェクト研究入門Ⅰ	2	
教 / 初等教育コース	概論	教育原論（小）	2	
	実践研究	実践体験活動演習（小）Ⅰ	2	
		実践体験活動演習（小）Ⅱ	2	
教 / 幼児教育コース	実践研究	実践体験活動演習（幼）Ⅰ	2	
国 / 国際文化学科	概論	国際文化概論	2	
		国際言語概論	2	
	実践研究	英語基礎演習	4	

第2学年の必修科目

学部 / 学科	科目名		単位数	注 意
全学共通	演 習	演習Ⅱ	4	この科目の担当者が 指導教員 となります。 コース決定及びクラス別懇談会時にコース登録し、コースと演習Ⅱのクラスを決定してください。事前に指定されている場合もありますので、OTANI UNIPA 等で確認してください。
文学部 国際学部	英語Ⅱ	英語	4	第1学年時に指定した語学を履修します。クラス分けの結果は、授業開始日までに OTANI UNIPA で発表します。
	初修外国語Ⅱ	ドイツ語、フランス語、 中国語、韓国・朝鮮語		
社会学部 教育学部	英語Ⅱ	英語	4	クラス分けの結果は、授業開始日までに OTANI UNIPA で発表します。
	初修外国語Ⅱ	ドイツ語、フランス語、 中国語、韓国・朝鮮語	0以上	第1学年のクラスを履修し、かつ第1学年時に第2学年クラスの履修を希望した場合にのみ履修が可能です。 クラス分けの結果は、授業開始日までに OTANI UNIPA で発表します。
文 / 真宗学科	講 義	大乘仏教入門	2	
文 / 仏教学科	講 義	大乘仏教入門	2	
社 / 現代社会学科	概 論	仏教社会論	2	
		社会学概論	2	
社 / コミュニティ・ デザイン学科	概 論	仏教社会論	2	
		社会学概論	2	
教 / 初等教育コース	概 論	仏教と教育（初等）	2	
教 / 幼児教育コース	概 論	教育原論（幼）	2	
		仏教と教育（初等）	2	

第3学年の必修科目

学部 / 学科	科目名		単位数	注 意
全学共通	演 習	演習Ⅲ	4	この科目の担当者が 指導教員 になります。

第4学年の必修科目

学部 / 学科	科目名		単位数	注 意
全学共通	演 習	演習Ⅳ	4	この科目の担当者が 指導教員 になります。
	卒業研究	卒業論文・卒業研究・ 卒業制作	8	指導教員担当の「卒業研究」を登録してください。

※前期卒業研究提出予定者は、「卒業研究（前期卒業用）」を登録してください。

I. 履修要領

教育研究目的

卒業の要件

単位制

単位修得
の認定

学部・学科別
卒業単位
配当表

開講科目表

時間割作成

聴講登録

共通基礎
科目外国語

現代総合科目・
自己選択科目

スポーツ
科目

国際交流
科目

コンソーシアム
単位互換制度

インターンシップ

卒業研究

進級基準

試験

成績評価

GPA

大谷大学
履修規程

大谷大学
進級規程

II. 資格の取得

教職課程

保育士養成課程

大谷保育協会
保育心理士課程

学校図書館
司書教諭課程

博物館学課程

図書館学課程

真宗大谷派
教師課程

社会教育課程
【社会教育主事任用資格】

社会福祉士
国家試験
受験資格課程

社会福祉主事
【任用資格】

開講科目表

巻末
科目担当者
一覧表

2. 聴講登録

【1】登録単位数制限について

前期、後期及び年間で登録できる単位数には制限があり、それぞれの制限単位数を超えてはいけません。制限単位数を超えて登録した単位数は、削除することになります。

《文学部・社会学部・教育学部・国際学部》



《履修上限単位数の拡大》

所定の単位を優れた成績をもって修得した学生については、単位数の上限を超えて履修登録を認めます。具体的には、直前の学期の GPA が 3.4 以上の学生に限り、学期の登録単位数の上限を 30 単位として取り扱います。

《注意事項》

以下の期別の科目は、それぞれ単位数の含まれ方が異なりますので注意してください。

- * 通年科目は前期・後期に単位数が分けられます。
- * 集中科目は、集中前期は「前期」、集中後期は「後期」に単位数が含まれます。
- * 卒業研究は、登録単位数制限には含みません。

《登録単位数制限に含まれない科目》

以下の対象の科目は、登録単位数制限に含まれません。

- ① 諸課程科目
諸課程科目とは、博物館学課程の「博物館実習」、真宗大谷派教師課程の「声明作法」等、卒業単位に含まれない諸課程（免許や資格）単独開講科目のことです。（「II. 資格の取得」の「11. 開講科目表」にて確認してください。）
「部落史論1」（現代総合科目歴史文化系開講科目）のような、諸課程と卒業単位の両方に使える科目は、登録単位数にカウントします。
- ② 大学コンソーシアム京都が提供する「単位互換制度」で認定を受けることができる他大学の科目。但し、「インターンシップ特殊演習1 大学コンソ京都」は登録単位数にカウントします。

[2] 聴講登録について

聴講登録関連日程でもお知らせしました通り、聴講科目の登録・修正・辞退は「OTANI UNIPA」から行います。

※各自、『履修要項』、『授業計画 (Web シラバス)』を確認して、時間割を決定してください。
※期間によっては、登録・修正・辞退と分かれていますので、注意してください。
※必ず登録完了画面まで進んでください。完了画面まで進まないと登録はされませんので注意してください。

1. 登録方法

- ・「OTANI UNIVERSITY UNIVERSAL PASSPORT」へアクセスし、ログイン。

OTANI UNIVERSITY
大谷大学 UNIVERSAL PASSPORT EX

LOGIN

• USER ID
[Input Field]

• PASSWORD
[Input Field]

ログイン

ID (学生番号) とパスワードを入力し、ログインしてください。

※パスワードが分からない場合は、教務課で再発行の手続きを行ってください。

2. 履修登録画面へアクセス

- ・「UNIVERSAL PASSPORT」にログインが完了すれば、「履修登録」を選択。

シラバス照会

時間割情報

学生時間割表

授業時間割表

教員時間割表

卒業見込判定

資格取得見込判定

履修・論文題目登録

履修登録

論文題目登録



3. 授業の選択



履修登録する曜日・時限のボタンをタップすると、履修可能な授業の一覧が表示されます。

表示された各科目をタップすれば、シラバスを照会することもできます。

4. エラーチェックと、登録の完了

・「チェック」をクリックしてエラーチェックを実施。

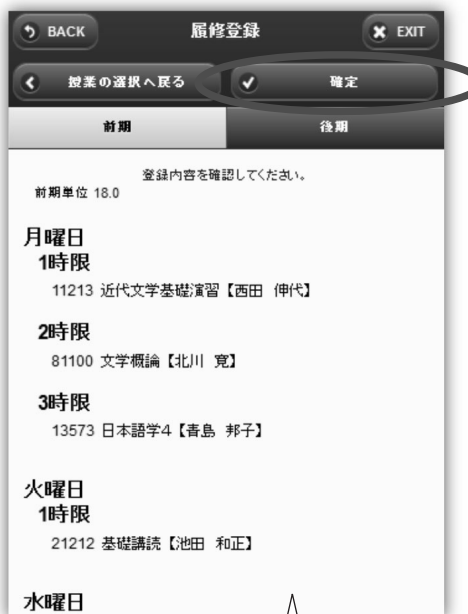


エラーがある場合は、曜日・時限が赤色になります。また、上部に「登録内容にエラーがあります」という表示が出ます。

赤色の授業をタップして、エラー詳細を確認してください。エラー科目には、チェックボックスにレ点を入れます。



上部の【取消】ボタンをタップすると授業選択の解除（削除）ができます。



再度チェックを行い、エラーがなければ、選択した授業の一覧が表示されます。「履修登録」画面に表示されている科目で間違いがないかを確認し、「確定」ボタンをタップします。これで履修登録が完了します。

聴講登録 関連日程	
I. 履修要領	
教育研究目的	
卒業要件及び 開講科目	卒業の要件
	単位制
	単位修得の認定 学部・学科別 卒業単位 配当表
開講科目表	
時間割作成	
聴講登録	
聴講登録	共通基礎 科目外国語
	現代総合科目・ 自己選択科目
	スポーツ 科目
	国際交流 科目
	コンソーシアム 単位互換制度
	インターシップ
卒業研究	
進級基準	
成績評価	試験
	成績評価
	GPA
規程集	大谷大学 履修規程
	大谷大学 進級規程
II. 資格の取得	
教職課程	
保育士養成課程	
大谷保育協会 保育心理士課程	
学校図書館 司書教諭課程	
博物館学課程	
図書館学課程	
真宗大谷派 教師課程	
社会教育課程 [社会教育主事任用資格]	
社会福祉士 国家試験 受験資格課程	
社会福祉主事 [任用資格]	
開講科目表	
巻末	科目担当者 一覧表

5. 進級見込・卒業見込判定

- ・聴講登録が完了すれば、進級見込・卒業見込があるかを必ず確認してください。



6. 授業計画 (シラバス) 照会

シラバス情報を確認するには、「シラバス照会」を選びます。

※シラバスは、授業時間割表からも見るすることができます。



7. 注意事項

- ・在学中に一度単位を修得した科目を再度履修することはできません。
ただし、「選択外国語」「〇〇特殊講義」「〇〇特殊演習」として開講されている科目は、繰り返し履修をすることが認められています。

I. 履修要領

教育研究目的

卒業の要件

卒業要件及び開講科目

単位制

単位修得の認定

学部・学科別卒業単位配当表

開講科目表

時間割作成

聴講登録

共通基礎科目外国語

現代総合科目・自己選択科目

スポーツ科目

国際交流科目

コンソーシアム単位互換制度

インターシップ

卒業研究

進級基準

試験

成績評価

GPA

規程集

大谷大学履修規程

大谷大学進級規程

II. 資格の取得

教職課程

保育士養成課程

大谷保育協会保育心理士課程

学校図書館司書教諭課程

博物館学課程

図書館学課程

真宗大谷派教師課程

社会教育課程

[社会教育主事任用資格]

社会福祉士

国家試験

受験資格課程

社会福祉主事

[任用資格]

開講科目表

巻末

科目担当者一覧表

3. 共通基礎科目外国語

[1] 必修外国語

1) 必修外国語とは

本学では、グローバル社会で活躍できる人物の育成をめざし、第1学年と第2学年において必修科目として外国語科目の受講を全員に課しています。外国語を修得することによって、

- ①異文化に触れ、幅広いものの見方を身につける
- ②専門の学問研究のため、基礎的学力を身につける

ことができるようになります。

必修外国語は、「英語」と「初修外国語」で構成されており、第1学年・第2学年においてそれぞれ週2回ずつ受講します。「初修外国語」は、ドイツ語、フランス語、中国語、韓国・朝鮮語の中から、入学手続き時に登録した語学を1つ履修します。(初修外国語の種類を変更することは一切できません。)

また、必修外国語は、履修すべきクラスを指定していますので、配付物ならびに OTANI UNIPA で各自で必ず確認してください。

なお、所属学部によって、外国語科目の履修単位数が異なりますので、以下の内容をしっかり確認してください。

2) 外国語 I

科目名称		履修学年	文学部	社会学部	教育学部	国際学部
外国語 I	英語 I	第1学年	4単位 【必修】	4単位 【必修】	4単位 【必修】	4単位 【必修】
	初修外国語 I		4単位 【必修】	0単位以上 【履修可能】	0単位以上 【履修可能】	4単位 【必修】

* 【文学部・国際学部】

英語・初修外国語のどちらも履修が必要です。

* 【社会学部・教育学部】

英語のみ履修が必要です。ただし、入学前に希望した者については、初修外国語の履修が可能となります（あらかじめクラス指定を行っています）。

3) 外国語 II

科目名称		履修学年	文学部	社会学部	教育学部	国際学部
外国語 II	英語 II	第2学年	4単位 【どちらか必修】	4単位 【必修】	4単位 【必修】	4単位 【どちらか必修】
	初修外国語 II			0単位以上 【履修可能】	0単位以上 【履修可能】	

* 【文学部・国際学部】

第1学年時に、英語重点型と初修外国語重点型のどちらかを選択します。

英語重点型を選択した場合は英語を（この場合初修外国語は履修できません）、初修外国語重点型を選択した場合は初修外国語を（この場合英語は履修できません）履修します。

なお、初修外国語重点型を選択した場合、履修できる語学は入学前に申請した（第1学年時に履修した）語学となります。

* 【社会学部・教育学部】

第1学年で初修外国語を履修した学生のみ、第2学年のクラスを履修することが可能となります（第1学年で履修を希望していない学生が、第2学年から履修し始めることは一切できません）。また、第1学年のみで初修外国語の履修を終えることも可能です。

なお、第2学年で初修外国語を履修する場合、履修できる語学は入学前に申請した（第1学年時に履修した）語学となります。

4) 必修外国語が不合格となった場合の履修方法について

- 「外国語Ⅰ」「外国語Ⅱ」とともに、不合格となった授業は、次の学年以降に「再履修授業」を受講します。
- ① 不合格になった授業分（単位数分）を必ず卒業までに履修します（「外国語Ⅰ・Ⅱ」とともに、必要な単位数を修得しないと卒業できません）。
 - ② 前期・後期とも「英語」「初修外国語」それぞれ2科目（2単位分）まで登録できます。例えば、「英語Ⅰ」が3科目（3単位分）不足している学生は、前期に2科目（2単位分）、後期に1科目（1単位分）を履修します。
 - ③ 「再履修授業」は、希望する授業を自分で選択し受講します。なお、受講希望者が多数に及んだ場合、受講抽選を行う場合がありますので、必ず第1回目の授業に出席し「受講カード」を担当教員に提出してください。

5) 第3学年時編入学生の必修外国語履修方法について

編入学時に認定された単位が不足している場合は、「外国語Ⅰ」「外国語Ⅱ」とともに「再履修授業」を履修することになります。授業の選択については、前述の説明を参照してください。
※編入学生は、第1学年の授業を第3学年に履修する必要があります。そのため、正規クラスでは、時間割が重複し必要な授業を受講できませんので、再履修授業を履修するようにしてください。

[2] 選択外国語

1) 選択外国語とは

選択外国語は、語学力を高めるとともに、多様な文化への理解や国際的なコミュニケーション能力を養うことを目的に構成されています。

選択外国語では、初修外国語として選択した言語以外も履修可能であり、全学部において、自身の目的や興味・関心に応じて自由に履修することができます。

開講科目は、科目の種類とレベルの定義を次のとおり設定しています。また、みなさんの興味・関心等に応じた履修ができるよう、それぞれの科目の目的・内容に応じて、開講科目を5つのテーマに分類していますので、履修の際の参考としてください（詳細については、「4) テーマについて」「選択外国語テーマ分類一覧」を参照してください。なお、科目の内容によっては、複数のテーマにまたがって記載されている場合もあります。

2) 科目の種類

各語学における1単位で開講している科目の種類を以下の5種類に統一しています。また、それ以外にも週に2回以上履修する科目や、語学研修科目も開講しています。

「読解」… 各語学における「読む力」を身につけることを目指す。

「会話」… 各語学における「話す力」と「聴く力」を身につけることを目指す。

「作文」… 英語における「書く力」を身につけることを目指す。

「文法」… 英語における「文法」を身につけることを目指す。

「しくみと表現」… 各語学における「書く力」と「文法」を中心とした「総合的な力」を身につけることを目指す。

I. 履修要領

教育研究目的

卒業の要件

卒業要件及び開講科目

単位制

単位修得の認定

学部・学科別卒業単位配当表

開講科目表

時間割作成

聴講登録

共通基礎科目外国語

現代総合科目・自己選択科目

スポーツ科目

国際交流科目

コンソーシアム単位互換制度

インターシップ

卒業研究

進級基準

試験

成績評価

GPA

規程集

大谷大学履修規程

大谷大学進級規程

II. 資格の取得

教職課程

保育士養成課程

大谷保育協会
保育心理士課程

学校図書館
司書教諭課程

博物館学課程

図書館学課程

真宗大谷派
教師課程

社会教育課程
【社会教育主事任用資格】

社会福祉士
国家試験
受験資格課程

社会福祉主事
【任用資格】

開講科目表

巻末

科目担当者
一覧表

3) レベルの定義

英語と初修外国語（ドイツ語、フランス語、中国語、韓国・朝鮮語）に分けて、レベルの定義を分けて開講していますので、履修する際に参考にしてください。

		レベル定義	
英語	中級	英語読解	時事英語や文化・社会に関するエッセイを正確に読む。
		英語会話	様々な状況下で使われる英語表現を学び、より正確に聞き、効果的に話す能力を身につける。
		英作文	自分の考えを断片的に書くのではなく、パラグラフ（段落）として書くにはどうすればよいかを学び、最終的にある程度のまとまった文章を書けるようにする。
		英文法	英文法の基本と応用。
	上級	英語読解	論理的・思索的・文学的文章を読み味わう。 (留学をめざす者、留学から帰国した者。または、英語検定試験 ^{*1} 準1級以上をめざす者。)
		英語会話	様々なテーマについて、自分の意見を英語で発表し、高度なコミュニケーション力を身につける。 (留学をめざす者、留学から帰国した者。または、英語検定試験準1級以上をめざす者。)
		英作文	手紙・履歴書・願書・ビジネスレターなどの異なる様式に沿った英文の書き方を学び、与えられたテーマに沿ったエッセイやストーリーの書き方を学ぶ。 (留学をめざす者、留学から帰国した者。または、英語検定試験準1級以上をめざす者。)
		英文法	言語学的アプローチによる一歩進んだ英文法。 (留学をめざす者、留学から帰国した者。または、英語検定試験準1級以上をめざす者。)
ドイツ語	初級	ドイツ語をはじめて学ぶ者、または基礎から復習したい者。	
	中級	ドイツ語を学んだ経験があり、さらに基礎力を伸ばしたい者。 あるいは、ドイツ語技能検定試験 ^{*2} 3級以上のドイツ語力の習得をめざす者。	
フランス語	初級	フランス語をはじめて学ぶ者、または基礎から復習したい者。	
	中級	フランス語を学んだ経験があり、基本的なフランス語力を伸ばしたい者。 あるいは、実用フランス語技能検定試験 ^{*3} 3級以上の取得をめざす者。	
	上級	中級を既に習得し、留学や実用フランス語技能検定試験2級以上の取得をめざす者。	
中国語	初級	中国語をはじめて学ぶ者、または基礎から復習したい者。 中国語検定試験 ^{*4} 準4級～4級をめざす者。	
	中級	中国語を学んだ経験があり、基本的な中国語力を伸ばしたい者。 中国語検定試験4級以上をめざす者。	
	上級	留学をめざす者、留学から帰国した者、及び中国語検定試験3級レベルまたはそれ以上の検定試験をめざす者。	
韓国・朝鮮語	初級	韓国・朝鮮語をはじめて学ぶ者、または基礎から復習したい者。	
	中級	韓国・朝鮮語を学んだ経験があり、ハングル能力検定試験 ^{*5} 4級以上、または TOPIK (韓国語能力検定試験) ^{*6} 3級以上をめざす者。	
	上級	留学をめざす者、留学から帰国した者、及びハングル能力検定試験準2級以上、または TOPIK (韓国語能力検定試験) 4級以上をめざす者。	

各検定試験の詳細については、各自でホームページを参照すること。

- ※1 英語検定試験：公益財団法人日本英語検定協会が実施している検定試験。
1級（上級）～5級（初級）までの7段階が設けられている。
- ※2 ドイツ語技能検定試験：公益財団法人ドイツ語学文学振興会が実施している検定試験。
1級（上級）～5級（初級）までの6段階が設けられている。
- ※3 実用フランス語技能検定試験：公益財団法人フランス語教育振興協会が実施している検定試験。
1級（上級）～5級（初級）までの7段階が設けられている。
- ※4 中国語検定試験：一般財団法人日本中国語検定協会が実施している検定試験。
1級（上級）～準4級（初級）までの6段階が設けられている。
- ※5 ハングル能力検定試験：NPO 法人ハングル能力検定協会が実施している検定試験。
1級（上級）～5級（初級）までの6段階が設けられている。
- ※6 TOPIK (韓国語能力検定試験)：公益財団法人韓国教育財団が実施している検定試験。
1級（初級）～6級（上級）までの6段階が設けられている。

4) テーマについて

① 実用会話 (旅行、観光、ビジネス)

旅行、観光、ビジネスで外国語を利用したいと考えているみなさんに受講してほしい科目です。これらの科目をきっかけにして、実用的な語学力を伸ばしましょう。

② 文化・社会 (新聞、インターネット、音楽)

さまざまなメディアを通じて生きた語学に触れたいと考えているみなさんに受講してほしい科目です。SNS やストリーミング配信など、インターネットを通じて外国の文化にふれるチャンスは圧倒的に増えました。文化と社会を学ぶことは語学学習をより一層深めることにつながります。

③ 検定対策

各種の語学能力検定試験を受験しようと考えているみなさんに受講してほしい科目です。毎年多くの人が外国語の検定試験を受験していますが、そこで必要とされるスキルや知識を身につけるのに役立ちます。

④ アカデミック

ゼミの発表やレポート、卒業研究作成のため、外国語を学びたいみなさんに受講してほしい科目です。初級文法の復習に加えて中級文法を学ぶことで、文章を正確に読めるようになることを目指します。

⑤ 留学

異文化理解、特に留学を考えているみなさんに受講してほしい科目です。留学は大学で学んだ外国語を現地で実践するプログラムで、語学研修や長期留学の制度があります。外国の文化や風俗・習慣に慣れ親しみ、世界とのつながりの中で自分を成長させていく絶好のチャンスです。

I. 履修要領

教育研究目的

卒業の要件

卒業要件及び開講科目

単位制

単位修得の認定

学部・学科別卒業単位配当表

開講科目表

時間割作成

聴講登録

共通基礎科目外国語

現代総合科目・自己選択科目

スポーツ科目

国際交流科目

コンソーシアム単位互換制度

インターシップ

卒業研究

進級基準

成績評価

試験

成績評価

GPA

規程集

大谷大学履修規程

大谷大学進級規程

II. 資格の取得

教職課程

保育士養成課程

大谷保育協会保育心理士課程

学校図書館司書教諭課程

博物館学課程

図書館学課程

真宗大谷派教師課程

社会教育課程

【社会教育主事任用資格】

社会福祉士国家試験受験資格課程

社会福祉主事【任用資格】

開講科目表

科目担当者一覧表

巻末

<選択外国語テーマ分類一覧>

	実用会話 (旅行、観光、ビジネス)	文化・社会 (新聞、インターネット、音楽)	検定対策	アカデミック	留学
	科目名称	科目名称	科目名称	科目名称	科目名称
英語	英語会話 (中級) 1	英語読解 (中級) 3	英語読解 (中級) 1	英作文 (中級) 1	英語読解 (中級) 3
	英語会話 (中級) 2	英語読解 (中級) 4	英語読解 (中級) 2	英作文 (中級) 2	英語読解 (中級) 4
	英語会話 (中級) 3	英語会話 (中級) 1	英語読解 (中級) 3	英文法 (中級) 1	英作文 (中級) 1
	英語会話 (中級) 4	英語会話 (中級) 2	英語読解 (中級) 4	英文法 (中級) 2	英作文 (中級) 2
	英語会話 (中級) 5	英語会話 (中級) 3	英文法 (中級) 1	英語のしくみと表現 (中級) 1	英語のしくみと表現 (中級) 1
	英語会話 (中級) 6	英語会話 (中級) 4	英文法 (中級) 2	英語のしくみと表現 (中級) 2	英語のしくみと表現 (中級) 2
	インテンシブ英会話 (中級) 1	英語会話 (中級) 5	英語読解 (上級) 3	英語読解 (上級) 1	英語会話 (中級) 3
	インテンシブ英会話 (中級) 2	英語会話 (中級) 6	英語読解 (上級) 4	英語読解 (上級) 2	英語会話 (中級) 4
		英語会話 (上級) 1	英文法 (上級) 1	英語会話 (上級) 1	英語会話 (中級) 5
		英語会話 (上級) 2	英文法 (上級) 2	英語会話 (上級) 2	英語会話 (中級) 6
		カナダ文化研究・実践英語*2		英語会話 (上級) 3	英語読解 (上級) 1
				英語会話 (上級) 4	英語読解 (上級) 2
				英作文 (上級) 1	英語会話 (上級) 1
				英作文 (上級) 2	英語会話 (上級) 2
				英文法 (上級) 1	英語会話 (上級) 3
				英文法 (上級) 2	英語会話 (上級) 4
				英作文 (上級) 1	
				英作文 (上級) 2	
				インテンシブ英会話 (中級) 1	
				インテンシブ英会話 (中級) 2	
				カナダ文化研究・実践英語*2	
独語	ドイツ語会話 (初級) 1	ドイツ語読解 (中級) 1	ドイツ語読解 (初級) 1	ドイツ語のしくみと表現 (初級) 1	ドイツ語会話 (初級) 1
	ドイツ語会話 (初級) 2	ドイツ語読解 (中級) 2	ドイツ語読解 (初級) 2	ドイツ語のしくみと表現 (初級) 2	ドイツ語会話 (初級) 2
		ドイツ語会話 (初級) 1	ドイツ語読解 (中級) 1	ドイツ語読解 (中級) 1	
		ドイツ語会話 (初級) 2	ドイツ語読解 (中級) 2	ドイツ語読解 (中級) 2	
	ヨーロッパの宗教と文化(ドイツ)*1*2				
仏語	フランス語会話 (初級)	フランス語読解 (初級)	フランス語読解 (初級)	フランス語読解 (中級)	フランス語読解 (中級)
	フランス語会話 (中級)	フランス語読解 (中級)	フランス語読解 (中級)	フランス語のしくみと表現 (中級)	フランス語会話 (中級)
		ヨーロッパの宗教と文化(フランス)*1*2	フランス語のしくみと表現 (初級)		
中国語	中国語会話 (初級) 1	中国語読解 (初級) 1	中国語読解 (初級) 1	中国語のしくみと表現 (初級) 1	中国語会話 (上級) 1
	中国語会話 (初級) 2	中国語読解 (初級) 2	中国語読解 (初級) 2	中国語のしくみと表現 (初級) 2	中国語会話 (上級) 2
	中国語会話 (初級) 3	中国文化事情・実践中国語 1*2	中国語のしくみと表現 (初級) 1		中国文化事情・実践中国語 1*2
	中国語会話 (初級) 4	中国文化事情・実践中国語 2*2	中国語のしくみと表現 (初級) 2		中国文化事情・実践中国語 2*2
	中国語会話 (中級) 1				
	中国語会話 (中級) 2				
	中国語会話 (上級) 1				
	中国語会話 (上級) 2				
韓国・朝鮮語	韓国・朝鮮語会話 (初級) 1	韓国・朝鮮語読解 (中級)	韓国・朝鮮語のしくみと表現 (初級) 1	韓国・朝鮮語のしくみと表現 (初級) 1	韓国・朝鮮語読解 (中級)
	韓国・朝鮮語会話 (初級) 2	韓国・朝鮮語会話 (中級)	韓国・朝鮮語のしくみと表現 (初級) 2	韓国・朝鮮語のしくみと表現 (初級) 2	韓国・朝鮮語会話 (中級)
	韓国・朝鮮語会話 (中級)	韓国・朝鮮語読解 (上級)	韓国・朝鮮語読解 (中級)	韓国・朝鮮語読解 (中級)	韓国・朝鮮語読解 (上級)
	韓国文化研究・実践韓国語*2	韓国・朝鮮語読解 (上級)	韓国・朝鮮語読解 (上級)	韓国文化研究・実践韓国語*2	

*1 現代総合科目歴史文化系の開講科目

*2 文学部・社会学部・教育学部のみ履修可 (国際学部は学科専門科目「実践文化演習 f~l」として開講しています)

4. 現代総合科目・自己選択科

[1] 現代総合科目

1) 現代総合科目とは

以下の3つの分野において、各自の学術的な興味・関心に見合う専門科目を自由に選択し、学修するためのものです。幅広い教養を身につけ、知性を高めるとともに、専門研究に資する知識を修得することを目指します。

それぞれの分野では、みなさんの興味・関心等に応じて体系的な履修ができるよう、開講科目を3つのテーマに分類しています。

各分野の開講科目については、第2章「5. 開講科目表」や「授業計画（Web シラバス）」で確認してください。

キャリア形成系（キャリアデザイン／情報リテラシー／文章表現）

社会的に貢献するための幅広い知見を身につけることをテーマに構成されています。

自然生命系（自然と環境／心とからだ／スポーツと健康）

自らを取り巻く自然環境を知り、命やこころへの理解を深めることをテーマに構成されています。

歴史文化系（世界の歴史／宗教と文化／人権問題）

世界の歴史と文化を多角的に理解することをテーマに構成されています。

2) 登録および履修について

各分野の開講科目を、第2章「5. 開講科目表」や「授業計画（Web シラバス）」で確認し、3つの分野のそれぞれから、興味・関心のある科目を選択し、履修してください。

なお、所属学部によって、以下のとおり、卒業に必要な単位数、履修できる科目が異なりますので注意してください。

【文学部・国際学部】

キャリア形成系、自然生命系、歴史文化系の3つの分野それぞれで4単位以上、合計で12単位以上履修してください。

第2章「5. 開講科目表」の現代総合科目開講科目表において、備考欄に「文学部のみ履修可」と記載されている科目は、国際学部の学生は履修できませんので注意してください。

注意！

それぞれの分野で設定している3つのテーマは、体系的に履修することができるよう開講科目を分類するためのものです。あくまでも、最低履修単位数は3つの分野（キャリア形成系、自然生命系、歴史文化系）のみに設定していますので、注意してください（3つの分野の下に設けたテーマには、最低履修単位数は設定されていません）。

【社会学部・教育学部】

現代総合科目全体の中から、合計で6単位以上履修してください。

第2章「5. 開講科目表」の現代総合科目開講科目表において、備考欄に「文学部のみ履修可」、「文学部・国際学部のみ履修可」と記載されている科目は、社会学部・教育学部の学生は履修できませんので注意してください。

I. 履修要領

教育研究目的

卒業要件及び開講科目
卒業の要件
単位制
単位修得の認定
学部・学科別卒業単位配当表
開講科目表

時間割作成

聴講登録

共通基礎科目外国語

現代総合科目・自己選択科目

聴講登録

スポーツ科目

国際交流科目

コンソーシアム
単位互換制度

インターシップ

卒業研究

進級基準

成績評価

試験

成績評価

GPA

規程集

大谷大学履修規程

大谷大学進級規程

II. 資格の取得

教職課程

保育士養成課程

大谷保育協会
保育心理士課程

学校図書館
司書教諭課程

博物館学課程

図書館学課程

真宗大谷派
教師課程

社会教育課程
【社会教育主事任用資格】

社会福祉士
国家試験
受験資格課程

社会福祉主事
【任用資格】

開講科目表

巻末

科目担当者一覧表

[2] 自己選択科目

1) 自己選択科目とは

自己選択科目は、他学部・学科の学科専門科目から、関心や興味に応じて自由に履修できるように設けられたものです。

2) 自己選択科目の履修について

上記のことから、自己選択科目は、科目が開設されているわけではありませんので注意してください。
下記にあげた単位が、自己選択科目に集計されますので、確認の上、履修を進めてください。

【自己選択科目に集計される単位】

- 1) 他学部・学科の受講可能な学科専門科目を履修した単位。
- 2) 入学前に取得した単位、単位互換制度や留学先で取得し認定された単位。

5. スポーツ科目

スポーツ科目の履修は、以下の点を確認したうえで登録・履修してください。また教職を目指す人は、「体育実技」を必ず履修しなければなりません。詳しくは、「Ⅱ. 資格の取得 / 1. 教職課程」を参照してください。

【1】スポーツ科目の種類

・現代総合科目 自然生命系

「スポーツ研究演習Ⅰ・Ⅱ」（2単位）

「障害者スポーツ研究演習Ⅰ・Ⅱ」（2単位）

「身体活動Ⅰ・Ⅱ」（1単位）【「Ⅰ」・「Ⅱ」において、一種目のみ受講可】

「身体活動Ⅰ・Ⅱ（障害者スポーツ）」（1単位）

※障害者スポーツ：障害のある人が行うスポーツを体験することで、障害者スポーツへの理解を深めることを目的としています。

【2】単位の認定

1 セメスターにおける出席状況を重視し、学習態度・意欲などから総合的評価をします。

【3】種目の決定と登録

- ① 前期及び後期における希望科目及び種目は、OTANI UNIPA から通常どおり登録してください。（**間違った種目を登録することのないよう、必ず開講科目表で確認してください。**）但し、それぞれの科目及び種目では、履修できる定員数を定めています。第1回目の授業で定員を超過している科目及び種目については抽選にて履修者を決定します。抽選漏れた学生は、他の定員超過していない科目及び種目を選択することができます。第1回目の授業を欠席した学生は、登録済であっても受講できない場合があります。科目及び種目の変更が生じた学生は、修正登録期間に登録を変更してください。
- ② 聴講登録は、前期科目・後期科目ともに前期の聴講登録期間で行ってください。

【4】その他の注意事項

- ① 実技においては、トレーニングウェアを着用しなければ受講できません。
- ② 運動靴は、体育館とグラウンドの2足制にして、混用しないでください。体育館用には赤靴紐をつけること。詳しくは「授業計画（Web シラバス）」や授業内での説明に従ってください。
- ③ 更衣は、体育館更衣室（1階）を使用してください。なお、貴重品は更衣室内に設置してあるロッカーを利用してください。
- ④ ロッカー使用は受講した授業時間内のみで、絶対に私物化しないでください。
- ⑤ 授業中に負傷、その他身体に異常が発生した場合は、直ちに担当教員に申し出て、その指示に従ってください。
- ⑥ スポーツ科目に関する連絡事項は、OTANI UNIPA に掲示します。

I. 履修要領

教育研究目的

卒業要件
卒業の要件
単位制
単位修得の認定
学部・学科別卒業単位配当表
開講科目表

時間制作成
聴講登録
共通基礎科目外国語
現代総合科目・自己選択科目
スポーツ科目
国際交流科目
コンソーシアム単位互換制度
インターシップ
卒業研究

進級基準
成績評価
試験
成績評価
GPA

規程集
大谷大学履修規程
大谷大学進級規程

II. 資格の取得

教職課程
保育士養成課程
大谷保育協会
保育心理士課程
学校図書館
司書教諭課程
博物館学課程
図書館学課程
真宗大谷派
教師課程
社会教育課程
【社会教育主事任用資格】
社会福祉士
国家試験
受験資格課程
社会福祉主事
【任用資格】
開講科目表

巻末
科目担当者一覧表

6. 国際交流科目

本学では国際的な視野を深める目的で、国際交流科目を開講しています。これらで修得した単位は、卒業に必要な単位として認定されます。しかし、海外での授業を含むことなどから、登録手続や履修方法が他の科目とは異なります。以下の説明をよく読んだうえで、履修を希望する学生は4月のオリエンテーション期間中に行う「国際交流科目説明会」に必ず出席し、手続を進めてください。

語学研修科目

生きた語学の修得に主眼を置いた科目で、本学で行う事前講義と現地で行う講義・研修から成っています。現地では、大学寮に滞在したりホームステイをしながら、現地大学教員による授業を約3～4週間にわたり受講します。また、教室での授業だけにとどまらず、名所・史跡などを訪れる様々な実地研修も実施されます。

登録科目	研修国	研修先大学	単位
中国文化事情・実践中国語1	台湾	淡江大学（淡水）	4
中国文化事情・実践中国語2	中国	首都師範大学（北京）	
韓国文化研究・実践韓国語	韓国	慶熙大学校（ソウル）	
カナダ文化研究・実践英語	カナダ	トンプソン・リヴァーズ大学（カムループス）	

※「中国文化事情・実践中国語1」と「中国文化事情・実践中国語2」は、年ごとに交互に開講します。

※「韓国文化研究・実践韓国語」は、隔年で開講します。

文化研修科目

様々な国の持つ文化・宗教・歴史などに、あらゆる角度から直接触れることにより異文化理解を深めることを目的とした科目で、本学で行う事前講義と現地で行う研修から成っています。様々なテーマをもとにその地域の史跡・名所など、主要都市を1～2週間にわたり訪れます。

登録科目	研修名	単位
インドの宗教と文化	インド仏教遺跡研修	2
中国の宗教と文化	中国仏教遺跡研修	
ヨーロッパの宗教と文化（ドイツ）	ヨーロッパ〈ドイツ〉文化研修	
ヨーロッパの宗教と文化（フランス）	ヨーロッパ〈フランス〉文化研修	

※「インドの宗教と文化」と「中国の宗教と文化」は、年ごとに交互に開講します。

※「ヨーロッパの宗教と文化（ドイツ）」と「ヨーロッパの宗教と文化（フランス）」は、年ごとに交互に開講します。

フィールドワーク

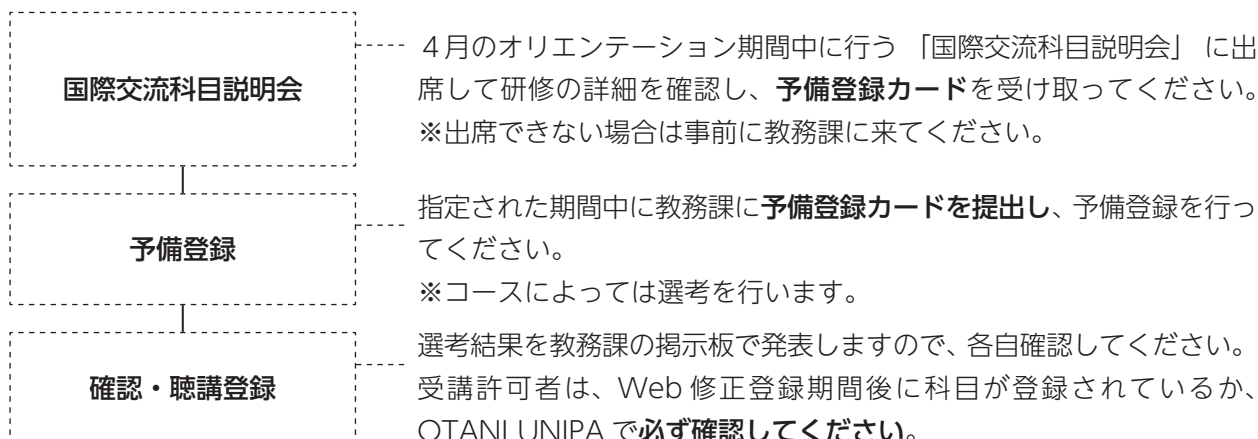
学科の趣旨に基いて開講するフィールドワークです。現地の課題を把握し、その解決について主体的に考えることを目的とします。本学で行う事前講義と現地研修から成っています。

登録科目・研修名	単位
フィールドワーク3（国際）	2

※「フィールドワーク3（国際）」は、隔年で開講します。

[1] 科目登録の流れ

※登録までの日程はすべて「国際交流科目説明会」でお知らせします。



[2] 科目の履修

- ① 事前講義のみ、または現地研修のみの受講は認めません。
- ② 事前講義は開講日時が不規則な科目もありますので、「時間割表」、「授業計画(Web シラバス)」等で確認し、**他の科目と重複して登録しないように**十分注意してください。
※開講日程は変更になる場合がありますので、説明会や「OTANI UNIPA」等で確認してください。
- ③ 授業とは別に渡航説明会を行います。ここで渡航に関する諸手続きをしますので**必ず出席**してください。**正当な理由のない欠席は認めません**。やむをえず欠席する場合は事前に教務課まで申出てください。手続きをしないと履修ができなくなる場合がありますので注意してください。

[3] 履修にあたっての注意事項

- ① 履修希望者が少数の場合や現地事情等によりやむを得ず開講を取りやめたり、研修内容を変更する場合があります。また、授業開始後、渡航日が近づいていても中止になる場合もあります。そのような場合でも、代替りの科目を登録することはできませんので、特に卒業年次生は、この科目が中止になっても**卒業所要単位に影響が出ないよう、時間割を作成する段階から注意**してください。
- ② 現地研修は夏期及び春期休暇期間中に実施します。そのため追試験や集中講義などと日程が重なることが考えられますので、その他の授業の履修についても充分計画を立ててください。
- ③ **聴講登録後のキャンセルは原則として認めません**。これは、履修したくても履修希望者多数により不許可になる学生がいることや、渡航手続きや現地大学へ受入準備等を依頼する必要があるためです。研修費用も高額になりますので詳細をよく確認のうえ、保証人とも充分相談をし、安易に取りやめることのないように計画を立ててください。**特別な事情で参加できなくなった場合は、すみやかに教務課まで相談に来て**ください。なお、キャンセルが認められた場合でもキャンセル料がかかることがありますので注意してください。
- ④ 受講が許可された人は現地研修にあたり、必ず**指定の海外旅行傷害保険に加入し、大学が実施する定期健康診断と、受講者対象の校医による面談を受診しなければなりません**。

[4] 単位の認定

単位認定は、事前講義及び渡航説明会の出席状況や、現地研修中の取り組み、試験などにより評価し、後期末に行います。

I. 履修要領

教育研究目的

卒業の要件

単位制

単位修得
の認定

学部・学科別
卒業単位
配当表

開講科目表

時間割作成

聴講登録

共通基礎
科目外国語

現代総合科目・
自己選択科目

スポーツ
科目

国際交流
科目

コンソーシアム
単位互換制度

インターシップ

卒業研究

進級基準

試験

成績評価

GPA

大谷大学
履修規程

大谷大学
進級規程

II. 資格の取得

教職課程

保育士養成課程

大谷保育協会
保育心理士課程

学校図書館
司書教諭課程

博物館学課程

図書館学課程

真宗大谷派
教師課程

社会教育課程
【社会教育主事任用資格】

社会福祉士
国家試験
受験資格課程

社会福祉主事
【任用資格】

開講科目表

巻末
科目担当者
一覧表

7. 大学コンソーシアム京都「単位互換制度」

「単位互換制度」は、各大学独自の教育理念に基づいた特色ある教育課程を、単位互換包括協定を結ぶことによって、学生自身の知的関心に基づいて相互に受講することを可能としています。学修の幅を広げると同時に、多様な経験ができる機会として捉え、積極的に参加してください。手続き等の詳細については、オリエンテーション期間中に開催される説明会に出席してください。また、公益財団法人大学コンソーシアム京都のホームページ「e 京都ラーニング（いーことらーにんぐ）」でシラバス閲覧（科目検索）等の情報を見ることができます。

<http://www.consortium.or.jp/>

<https://el.consortium.or.jp/login.php>

単位互換制度

単位互換制度とは、他大学・短期大学の科目を履修し、それを本学の単位として認定を受けることができる制度です。授業は JR 京都駅前の「キャンパスプラザ京都」もしくは科目提供大学内で実施されます。受講料は原則として無料ですが、科目により所定の実習費等が必要となる場合があります。

① 出願資格

本学に在籍する第1～4学年

（第4学年次は単位認定に注意が必要です。「⑤出願に際しての注意事項」を参照してください。）

② 出願手続

履修希望者は4月のオリエンテーション期間中に行われる説明会に参加し、出願方法を確認の上教務課で手続きを行ってください。なお科目開設大学では、単位互換科目の受講条件や受講定員が設けられている場合もあるため、必ずしも希望した授業科目を受講できるとは限りません。あらかじめ注意して出願してください。なお、本学提供の開講科目を受講する場合は出願票を提出せず、通常通り聴講登録を行ってください。（本学の授業科目として登録をするため、登録単位数制限に含まれますので注意してください。）

③ 履修許可および履修手続

各大学において書類選考された結果は、4月下旬にメールで通知されます。大学によって別途手続きを必要とする場合があるので、履修許可をされた学生は、指定された期日までに各大学の指示に従い所定の手続きを行ってください。

④ 単位認定

公益財団法人大学コンソーシアム京都「単位互換授業」で修得した単位を本学の単位として認定を希望する人は、必ず出願時に、「出願票」と「単位認定願（在学中）」をセットにして教務課に提出してください。認定結果については、履修の翌年度初めに修得単位としてお知らせしますので確認してください。なお、「単位認定願（在学中）」を出願時に提出していない人は、「単位認定の意志がない」と判断され、理由の如何を問わず単位を認定することができなくなりますので注意してください。

認定単位の上限は、在学中において入学前の既修得単位とあわせて最大40単位以内、「自己選択科目」に認定します。

⑤ 出願に際しての注意事項

- ・単位互換授業は登録単位数制限には含まませんが、出願できる科目数の上限は1人につき、年間6科目以内となっています。
- ・単位互換授業を受ける場合、授業開始日や時間割が本学のものとは異なることがあります。まず本学での時間割を組み、移動時間等を考慮し無理のない範囲で単位互換授業を受けるようにしてください。
- ・第4学年次については、本学の授業科目で卒業単位数を聴講登録してください。卒業に関わる単位としては、単位互換科目を履修計画に入れないようにしてください。（科目提供大学からの成績報告時期によっては、単位認定できない場合があります。）
- ・近年、一度も授業に出席せずに履修を棄権する学生が目立っています。受講を取りやめることは他大学に多大な迷惑を及ぼすため、出願し受講が許可された科目は責任を持って受講してください。なお教務課に無届で授業や試験を棄権して「K」評価等となった場合、翌年度の出願を認めない場合があります。

8. インターンシップ

本学には、以下の3種類のインターンシップ制度があります。履修については各項目を参照してください。

- [1] 「インターンシップ特殊演習1 大学コンソ京都」
- [2] 「インターンシップ特殊演習2 大谷大学」
- [3] 「インターンシップ3学校（教職）」

※これらの科目の聴講登録は、通常の聴講登録期間にはできません。それぞれの「授業計画（Web シラバス）」で講義日程を確認のうえ「事前講義」に参加し、事前講義内で聴講登録を行ってください。また、これらの科目は単位数制限の対象科目となっています。これらの科目を登録することにより登録単位数の制限を超過する場合は、他の科目を削除する必要があります。

※「インターンシップ特殊演習1 大学コンソ京都」・「インターンシップ特殊演習2 大谷大学」・「インターンシップ3学校（教職）」の同時履修はできませんので注意してください。

[1] インターンシップ特殊演習1 大学コンソ京都

本学が実施するインターンシップのうち、開講科目名「インターンシップ特殊演習1 大学コンソ京都」は、公益財団法人大学コンソーシアム京都（以下 大学コンソーシアム京都）が窓口となって実施しているプログラムを利用しています。このプログラムは、主に企業やNPO・行政機関等、実習受け入れ先において就業体験（実習）を行う教育プログラムです。また、大学コンソーシアム京都で実施する事前学習・事後学習・実習に参加するとともに、本学キャンパス内で実施される事前講義・事後講義に参加することで、卒業所要単位とすることができます。

このプログラムでは「ビジネス・パブリックコース」、また長期・実践型「長期プロジェクトコース（プログレスコース）」の2つのコースを卒業所要単位として受講することができます。（単位互換科目の「インターンシップ入門（同志社大学）」は、本プログラムとは異なりますので注意してください。）各コースのプログラムの内容については、大学コンソーシアム京都が発行する『インターンシップ実習生募集ガイド』を参照してください。本プログラムに関する疑問、質問についてはキャリアセンターに相談してください。

① 対象学年

本学に在籍する第2・3学年。

② 出願手続について

キャリアセンターが4月に実施するインターンシップ説明会に参加し、プログラム内容、出願方法等詳細を確認したうえで手続を行ってください。

出願票は、指定された期日に**大学コンソーシアム京都のWeb ページより提出**してください。出願後、大学コンソーシアム京都で選考が行われ、本人宛に「選考結果通知書」が届きます。

③ 履修許可・履修手続について

大学コンソーシアム京都で行われる選考に合格し、インターンシップでの学習成果を本学の卒業所要単位として認定を希望する場合は、本学キャンパスで実施される④ 1. 「学内事前講義」（講義日程は「授業計画（Web シラバス）」参照）を受講し、授業内に「インターンシップ特殊演習1 大学コンソ京都」の聴講登録を行ってください。

④ プログラムの流れ

1. 「学内事前講義」——本学キャンパスにおいて、事前講義、**聴講登録**を行います。
2. 「事前学習」——基礎知識の学習、自己分析、実習目標の設定
- ↓
3. 「実習」——就業体験
- ↓
4. 「事後学習」——実習目標の設定に対する評価・総括、今後の目標設定など
5. 「学内事後講義」——本学キャンパスにおいて、事後講義を行い、レポート提出を課します。

※「学内事前講義」と「学内事後講義」の日程については、「授業計画（Web シラバス）」参照のこと。

- 1・5については、本学キャンパスにて実施。
- 2・4については、大学コンソーシアム京都が指定するオンラインツールを用いて実施。
- 3については、大学コンソーシアム京都が指定する場所にて実施。

[2] インターンシップ特殊演習 2 大谷大学

この科目は、本学独自で開講しており、提携している事業所において2週間程度の就業体験（実習）を行うプログラムです。本学キャリアセンターが指定する期日までに**出願票**を提出し、**選考に合格した者のみ受講することができます。**

① 対象学年

本学に在籍する全学年。

② 出願手続について

キャリアセンターが4月に実施するインターンシップ説明会に参加し、プログラム内容、出願方法等詳細を確認したうえで手続を行ってください。

③ 履修許可・履修手続について

出願票の提出については、指定された期日までに**キャリアセンターへ直接提出**してください。
提出後、選考が行われ、結果はキャリアセンター掲示板に掲示します。

④ プログラムの流れ

1. 「事前講義」——事前講義、**聴講登録**を行います。



2. 「実 習」——就業体験



3. 「事後講義」——事後講義を行い、レポート提出を課します。

※「事前講義」と「事後講義」の日程については、「授業計画(Web シラバス)」参照のこと。

選考に合格し、インターンシップでの学習成果を本学の卒業所要単位として認定を希望する場合は、④ 1. 「事前講義」(講義日程は「授業計画(Web シラバス)」参照) 内にて「インターンシップ特殊演習 2 大学大学」の聴講登録を行ってください。

[3] インターンシップ 3 学校 (教職) 〈2021 年度休講〉

この科目は、本学独自で開講しており、特別支援学校にて研修を行うプログラムです。期日までに志望理由書を提出し、**選考に合格した者のみ受講することができます。**

① 対象学年

本学文学部に在籍し、教職課程を履修している学生又は履修済みの第3学年及び大学院生のうち、学校ボランティアを経験した学生又は、それに準ずる学生。

② 出願手続について

オリエンテーション期間中に開催される**教職課程履修説明会**に参加し、出願方法等、詳細を確認したうえで手続を行ってください。

③ 履修許可・履修手続について

志望理由書の提出については、指定された期日までに**教職支援センターへ直接提出**してください。
提出後、選考が行われ、結果は4号館掲示板に掲示します。

④ プログラムの流れ

1. 聴講登録

2. 「事前講義」——事前講義を行います。



3. 「研 修」——学校業務体験



4. 「事後講義」——事後講義を行い、レポート提出を課します。

※「事前講義」と「事後講義」の日程については、「授業計画(Web シラバス)」参照のこと。

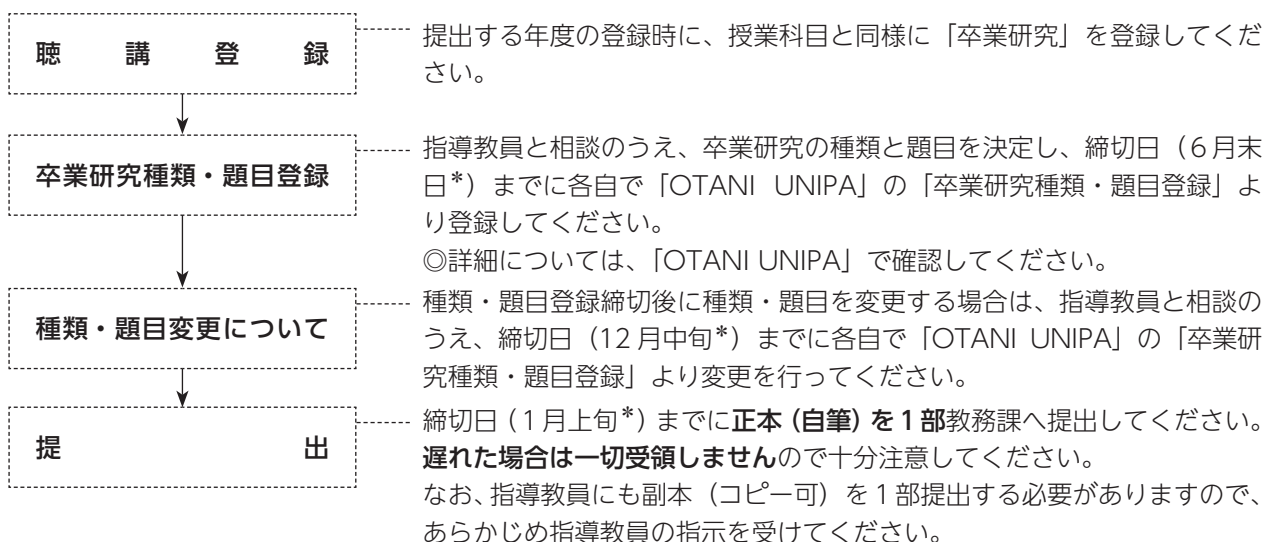
聴講登録 関連日程	
I. 履修要領	
教育研究目的	
卒業要件及び開講科目	卒業の要件
	単位制
	単位修得の認定
	学部・学科別卒業単位配当表
開講科目表	
聴講登録	時間制作成
	聴講登録
	共通基礎科目外国語
	現代総合科目・自己選択科目
	スポーツ科目
	国際交流科目
	コンソーシアム単位互換制度
インターンシップ	
卒業研究	
成績評価	進級基準
	試験
	成績評価
	GPA
規程集	大谷大学履修規程
	大谷大学進級規程
II. 資格の取得	
教職課程	
保育士養成課程	
大谷保育協会 保育心理士課程	
学校図書館 司書教諭課程	
博物館学課程	
図書館学課程	
真宗大谷派 教師課程	
社会教育課程 【社会教育主事任用資格】	
社会福祉士 国家試験 受験資格課程	
社会福祉主事 【任用資格】	
開講科目表	
巻末	科目担当者一覧表

9. 卒業研究

卒業研究は、4年間の学びの集大成として成果を評価するものである。卒業論文、卒業研究又は卒業制作のいずれかを提出して、学修の成果を評価する。

[1] 提出のための手続

【第4学年】



[2] 卒業研究の様式

◎卒業論文 主論文（20,000字程度）

◎卒業研究 調査報告書等（20,000字程度）

◎卒業制作 文芸作品、映像・音声作品、翻訳作品等並びに作品解題（文学部・教育学部・国際学部 6,000字程度、社会学部 20,000字程度）

[3] 口述試問

- ① 卒業研究提出後、口述試問が実施されます。この審査に合格しなければ単位は認定されません。
- ② 口述試問は、1月中旬から実施されます。

*日程の詳細については、『卒業研究作成の手引』を参照してください。（第4学年次の5月上旬「OTANI UNIPA」にて配信予定）

I. 履修要領

教育研究目的

卒業の要件

単位制

単位修得
の認定

学部・学科別
卒業単位
配当表

開講科目表

時間制作成

聴講登録

共通基礎
科目外国語

現代総合科目・
自己選択科目

スポーツ
科目

国際交流
科目

コンソーシアム
単位互換制度

インターシップ

卒業研究

進級基準

試験

成績評価

GPA

大谷大学
履修規程

大谷大学
進級規程

II. 資格の取得

教職課程

保育士養成課程

大谷保育協会
保育心理士課程

学校図書館
司書教諭課程

博物館学課程

図書館学課程

真宗大谷派
教師課程

社会教育課程
【社会教育主事任用資格】

社会福祉士
国家試験
受験資格課程

社会福祉主事
【任用資格】

開講科目表

巻末
科目担当者
一覧表

「卒業研究」ルーブリック

評価の観点 / 到達目標	不十分である	到達しつつある	達成している	超えている	さらなる高み
	各要素の到達目標に対して明らかに不十分なレベルである。	各要素の到達目標に対して合格最低限のレベルである。	各要素の到達目標を達成している。	各要素の到達目標を超えている部分がある。	研究誌に投稿可能である。
評価	1	2	3	4	5
テーマ設定と背景の理解	先行研究について理解せず、研究テーマを明確にできていない。	教員の指導のもと、先行研究について理解しており、研究テーマが明確である。	先行研究について論評することができ、自ら研究テーマが説明できる。	先行研究について十分な論評ができ、研究テーマが明確に説明できる。	研究テーマを研究史上に位置づけることができる。
基礎的な知識及び方法論	基礎的な知識・方法が不十分であり、研究方法を学んでいない。	教員の指導のもと、基礎的な知識・方法を有し、研究方法を学んでいる。	基礎的な知識・方法を十分有し、自ら研究方法が説明できる。	基礎的な知識・方法を活用し、研究テーマに即した研究方法が明確に説明できる。	用いた方法が自らの研究にとって最適であることが説明できる。
研究の根拠となる事実や資料の収集など	議論のために必要な事実や資料の収集が不十分である。	教員の指導のもと、議論のために必要な事実や資料が採り上げられている。	議論のために必要な事実や資料を自ら十分に収集できている。	議論のために必要な事実や資料の収集および整理が、十分にできている。	収集した事実や資料が自らの研究に必要であることが説明できる。
論理構成（課題設定 - 分析検討 - 解明）	論として成り立たない。一貫した展開がない。	教員の指導のもと、論の展開ができていない。	一貫性のある論が展開できている。	一貫性のある論の展開が明確にできている。	研究テーマに即した論理構成が明確にできている。
アカデミック・ライティング（引用・文章の適切性）*	引用が明示されず、文章が適切でない。	許容範囲であるが、不要な引用、不適切な文章が見られる。	引用・文章とも概ね適切である。	適切な引用を含め、すぐれた文章で論述されている。	先行研究の十分な調査に基づく確かな引用がなされ、極めて優れた文章で論述されている。

* 「学びの発見」ライティング・ルーブリックに準拠

文章ルール 1. 誤字脱字は無い。 2. 段落冒頭は一字下げ。 3. 助詞（てにをは）は適切か。 4. 文体は常体（である調）か。 5. 接続詞は適切か。

1. 進級基準

本学では、大谷大学進級規程に基づき、第1学年・第2学年・第3学年の学年末に進級・原級留置の判定を行います。

それぞれの基準を充たしていないと進級できませんので、第2章「4. 学部・学科別卒業単位配当表」に基づき卒業所要単位（* 諸課程科目は除く）を充たすよう計画的に履修してください。

* 諸課程科目とは、博物館学課程の「博物館実習」、図書館学課程の「図書館概論」や、真宗大谷派教師課程の「声明作法」等、卒業単位に含まれない諸課程単独開講科目のことです。（「Ⅱ. 資格の取得」の「11. 開講科目表」にて確認してください。）

第1学年→第2学年進級基準

第1学年に1年以上在学し、以下の科目・単位数を充たしていること。

進 級	原 級 留 置						
<table style="border: none;"> <tr> <td style="border: none;">人間学 I</td> <td rowspan="5" style="border: none; vertical-align: middle;">} 8 単位以上</td> </tr> <tr> <td style="border: none;">学びの発見</td> </tr> <tr> <td style="border: none;">英語 I</td> </tr> <tr> <td style="border: none;">初修外国語 I</td> </tr> <tr> <td style="border: none;">演習 I</td> </tr> </table> <p>上記の科目を含み卒業所要単位合計 18 単位以上修得済みであること。</p>	人間学 I	} 8 単位以上	学びの発見	英語 I	初修外国語 I	演習 I	<p>進級基準に充たない者</p>
人間学 I	} 8 単位以上						
学びの発見							
英語 I							
初修外国語 I							
演習 I							

第2学年→第3学年進級基準

第2学年に1年以上在学し、以下の科目・単位数を充たしていること。

進 級	原 級 留 置												
<table style="border: none;"> <tr> <td style="border: none;">学びの発見</td> <td style="border: none;">2 単位</td> </tr> <tr> <td style="border: none;">演習 I</td> <td style="border: none;">4 単位</td> </tr> <tr> <td colspan="2" style="border: none;"> </td> </tr> <tr> <td style="border: none;">人間学 I</td> <td rowspan="5" style="border: none; vertical-align: middle;">} 8 単位以上</td> </tr> <tr> <td style="border: none;">英語 I</td> </tr> <tr> <td style="border: none;">初修外国語 I</td> </tr> <tr> <td style="border: none;">英語 II 又は 初修外国語 II</td> </tr> <tr> <td style="border: none;"> </td> </tr> </table> <p>上記の科目を含み卒業所要単位合計 48 単位以上修得済みであること。</p>	学びの発見	2 単位	演習 I	4 単位			人間学 I	} 8 単位以上	英語 I	初修外国語 I	英語 II 又は 初修外国語 II		<p>進級基準に充たない者</p>
学びの発見	2 単位												
演習 I	4 単位												
人間学 I	} 8 単位以上												
英語 I													
初修外国語 I													
英語 II 又は 初修外国語 II													

第3学年→第4学年進級基準

第3学年に1年以上在学し、以下の科目・単位数を充たしていること。

進 級	原 級 留 置
<p>演習Ⅱ 4単位</p> <p>上記の科目を含み卒業所要単位合計80単位以上修得済みであること。</p>	<p>進級基準に充たない者</p>
進 級	原 級 留 置
<p>人間学Ⅰ 人間学Ⅱ 英語Ⅰ 初修外国語Ⅰ 演習Ⅱ</p> <p style="font-size: 2em;">}</p> <p>10単位以上</p> <p>上記の科目を含み卒業所要単位合計80単位以上修得済みであること。</p>	<p>進級基準に充たない者</p>

聴講登録
関連日程

I. 履修要領

教育研究目的

卒業の要件

単位制

単位修得
の認定

学部・学科別
卒業単位
配当表

開講科目表

時間割作成

聴講登録

共通基礎
科目外国語

現代総合科目・
自己選択科目

スポーツ
科目

国際交流
科目

コンソーシアム
単位互換制度

インターシップ

卒業研究

進級基準

試験

成績評価

GPA

大谷大学
履修規程

大谷大学
進級規程

II. 資格の取得

教職課程

保育士養成課程

大谷保育協会
保育心理士課程

学校図書館
司書教諭課程

博物館学課程

図書館学課程

真宗大谷派
教師課程

社会教育課程
【社会教育主事任用資格】

社会福祉士
国家試験
受験資格課程

社会福祉主事
【任用資格】

開講科目表

巻末
科目担当者
一覧表

2. 試 験

[1] 定期試験

定期試験は原則として各学期末に行います。

* 次のような場合には、受験資格が与えられません。

- ① 聴講登録をしていない場合
- ② 休学期間中に開講された科目
- ③ 学費未納の場合（全科目）
- ④ 受験中に不正な行為又は不当な行為をした場合
- ⑤ 学生証を携帯していない場合

[2] 試験方法

試験は、科目の内容・性質によって様々な方法で行われます。例えば、試験期間以外に小テストを実施する科目もあります。そのつど教務課の掲示や担当者の指示に従ってください。

試験は筆記・レポート・実技等によって行います。

試験時間帯 ⇒ 定期試験期間中は通常の授業と異なり、下記の時間帯となります。

時限	1	2	3	4	5	6
時間	9:30～10:30	11:00～12:00	13:00～14:00	14:30～15:30	16:00～17:00	17:30～18:30

筆記試験等の受験注意事項（定期試験・追試験共通）

- ① 学生証は必ず机上に提示してください。
学生証を忘れたとき
⇒ 試験開始前に学生支援課で仮学生証（発行手数料 500 円）の発行を受けてください。
ただし、仮学生証は発行当日のみ有効です。
- ② 遅刻者は、試験開始後 15 分以内に限り監督者の許可を得て受験できます。
- ③ 試験開始後 20 分を経過するまでは退出できません。
- ④ 不正行為は厳禁です。不正行為が発見された場合は、履修規程により受験資格を失うことがあります。また、処分によっては、当該科目はもちろん当該科目以外の全ての科目について、失格となることがあります。
- ⑤ 答案は必ず試験場で提出してください。白紙答案でも持ち帰ることはできません。
- ⑥ 指定した追試験期間中に受験できなかった場合は、理由を問わずその受験資格を失います。

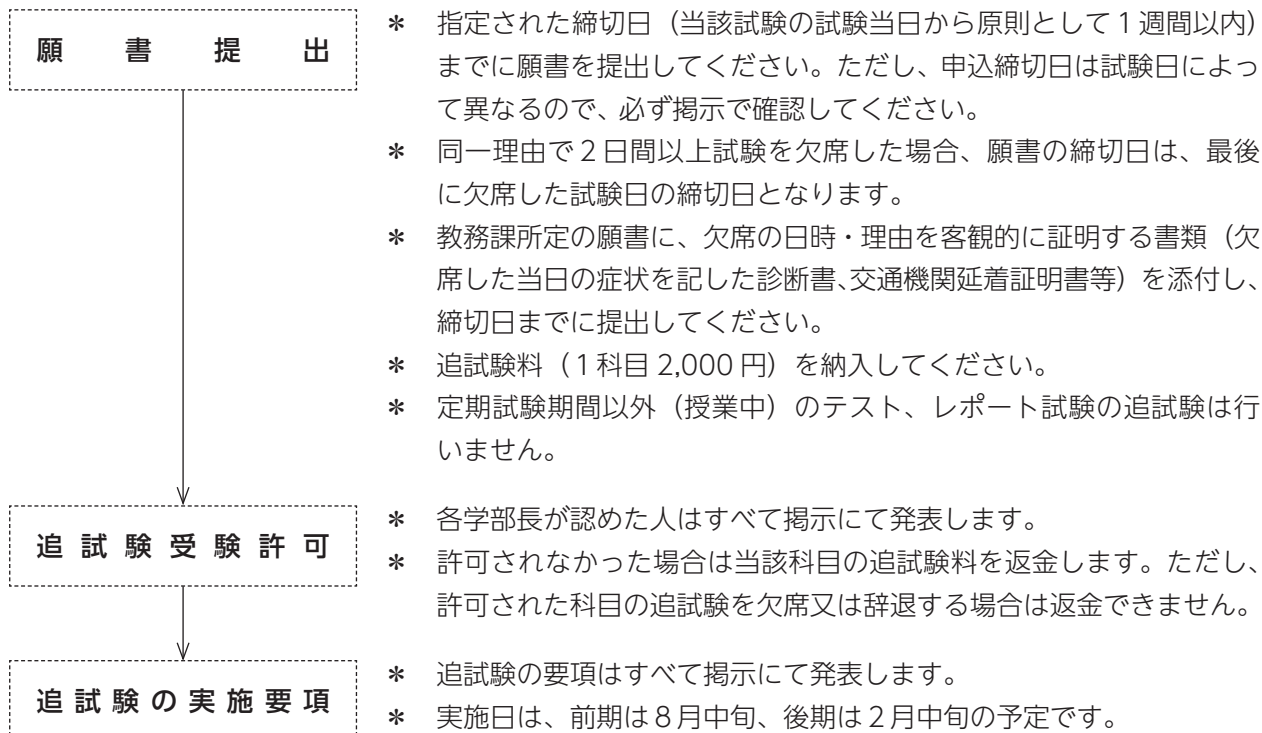
レポート作成の注意事項

- ① 手書きの場合
 - ⇒ 原則として「大谷大学論文用紙」（A4判 200字詰）を使用し、黒又は青のペンで作成してください。科目によって書式・制限枚数等に指定のある場合はその指示に従ってください。
- ② パソコン（ワープロ）等で作成する場合
 - ⇒ 原則としてA4用紙片面印刷にしてください。科目によって用紙・書式・制限枚数等に指定のある場合はその指示に従ってください。感熱紙の使用はできません。
- ③ 表紙 ⇒
 - ・ 教務課で配布している**表紙**をつけて綴じてください。
 - ・ 最終ページまで記述した場合は、白紙の論文用紙を裏表紙として付けてください。
 - ・ 表紙の下部にある「レポート受領書」は提出時に受け取り、成績確認まで各自保管してください。
- ④ 提出 ⇒ 提出日時等、締切日は厳守してください。**締切日時を過ぎたものは一切受領しません。**

[3] 追試験

定期試験を受験する資格はあるが、病気など正当と認められる事由で定期試験を欠席した場合に限り、以下のような手続きにより追試験を受けることができます。事由の詳細は第5章「1. 大谷大学履修規程」を参照してください。

[願書提出から試験日までの手順]



聴講登録
関連日程

I. 履修要領

教育研究目的

卒業の要件

単位制

単位修得
の認定

学部・学科別
卒業単位
配当表

開講科目表

時間割作成

聴講登録

共通基礎
科目外国語

現代総合科目・
自己選択科目

スポーツ
科目

国際交流
科目

コンソーシアム
単位互換制度

インターシップ

卒業研究

進級基準

試験

成績評価

GPA

大谷大学
履修規程

大谷大学
進級規程

II. 資格の取得

教職課程

保育士養成課程

大谷保育協会
保育心理士課程

学校図書館
司書教諭課程

博物館学課程

図書館学課程

真宗大谷派
教師課程

社会教育課程
【社会教育主事任用資格】

社会福祉士
国家試験
受験資格課程

社会福祉主事
【任用資格】

開講科目表

巻末
科目担当者
一覧表

3. 成績評価

[1] 評価

成績は100点をもって満点とし、60点以上を合格とします。なお、履修成績は次のように評価します。

評 価	評 点	判 定 基 準	
合 格	S	100点～90点	特に優れた成績を示したもの
	A	89点～80点	優れた成績を示したもの
	B	79点～70点	妥当と認められる成績を示したもの
	C	69点～60点	合格と認められる最低限の成績を示したもの
不 合 格	F	59点以下	合格と認められるに足る成績を示さなかったもの
評 価 不 能	K	—	授業参加や試験について棄権・放棄をしたとみなされ、評価することができないもの

[2] 成績の通知

本学では、前期授業開始前、後期授業開始前にその前の学期科目の成績を「OTANI UNIPA」内の「成績照会」画面にて発表します。発表する日程が決まれば、「OTANI UNIPA」にて連絡します。

【前期分】：前期科目・8月までに完結する集中講義の成績

【後期分】：後期科目・通年科目・9月以降に完結する集中講義の成績

[3] 「成績照会」画面について

- ① 前の学期までに聴講登録した科目の成績が確認できます。
- ② 「科目名」欄の「卒業所要配当区分」に基づき、「OTANI UNIPA」の「成績照会」画面で、履修した科目がそれぞれの配当区分に分類されているか確認してください。
- ③ 成績評価のうち「N」は他大学等の認定科目であることを表します。また、「J」は修練等の受講を表します。

[4] 成績評価に関する問い合わせ

前期科目の成績について

⇒ 2021年9月下旬～10月上旬

後期科目の成績について

⇒ 2022年3月下旬～4月上旬

※日程が決まれば、「OTANI UNIPA」にて連絡します。

(受付時間…窓口開室時間 受付場所…教務課)

成績評価について確認したい場合、この期間に文書にて問い合わせをすることができます。その場合、提出した答案（レポート）や授業への出席日数等を含め、具体的・客観的な理由を所定の用紙に記入の上、提出することになります。

この問い合わせは成績の確認を求めるものであり、「救済措置を依頼する」「個人的事情の考慮を依頼する」という内容は、受付できません。

OTANI UNIPA 「成績照会」画面の見方



【1】登録科目・修得科目

科目名【教員氏名】	年度	学期	単位	評価
【共通基礎科目】				
<人間学I>				
人間学I a	2013	前期	2	A
人間学I b	2013	後期	2	A
<人間学II>				
人間学II	2014	後期	2	B
人間学II	2015	前期	2	C
<大学導入>				
学びの発見	2013	前期	2	B
<第1外国語>				
英語(総合) a	2013	前期		K
英語(総合) b	2013	後期		K

- ・聴講登録をした科目、及び既に修得済みの科目を記載しています。
- ・不合格となった科目も、それぞれの科目区分に記載しますので注意してください。
- ・科目名の先頭に※がついた科目は、現在履修中です。

聴講登録
関連日程

I. 履修要領

教育研究目的

卒業の要件

単位制

単位修得
の認定

学部・学科別
卒業単位
配当表

開講科目表

時間制作成

聴講登録

共通基礎
科目外国語

現代総合科目・
自己選択科目

スポーツ
科目

国際交流
科目

コンソーシアム
単位互換制度

インターシップ

卒業研究

進級基準

試験

成績評価

GPA

大谷大学
履修規程

大谷大学
進級規程

II. 資格の取得

教職課程

保育士養成課程

大谷保育協会
保育心理士課程

学校図書館
司書教諭課程

博物館学課程

図書館学課程

真宗大谷派
教師課程

社会教育課程
【社会教育主事任用資格】

社会福祉士
国家試験
受験資格課程

社会福祉主事
【任用資格】

開講科目表

巻末
科目担当者
一覧表

【2】 単位修得状況

科目分類	卒業要件 単位	修得済単 位	履修中単 位	合計単位
卒業所要	124	116	0	116
共通基礎	18	18	0	18
人間学I	4	4	0	4
人間学II	4	4	0	4
大学導入	2	2	0	2
外国語1	4	4	0	4
外国語2	4	4	0	4
学科専門	66	58	0	58
学科導入	2	2	0	2
演習I	4	4	0	4
演習II	4	4	0	4
演習III	4	4	0	4
演習IV	4	4	0	4
概論	8	8	0	8
講義A	10	10	0	10
講義B	10	10	0	10
実践研究	12	12	0	12
卒業論文	8	0	0	0
現代総合	16	16	0	16
コミュケ	4	4	0	4

※この例は、学部で卒業に必要な124単位中、116単位修得したことを示しています。

- ・ 修得した単位数が、科目区分ごとに集計されています。
- ・ 「卒業要件単位」は、科目区分ごとの卒業最低履修単位を示しています。
- ・ 「修得済単位」は、修得した単位数が集計されています。
- ・ 「履修中単位」は、現在履修している単位数を示しています。

【3】 成績評価

- ・ 詳細は、前頁の「3. 成績評価」を確認してください。

【4】 GPA

GPA 2.85

- ・ 在学期間に取得した通算GPAを表示しています。
- ・ 詳細は、次頁の「4. GPA」を確認してください。

I. 履修要領

教育研究目的

卒業の要件

単位制

単位修得
の認定

学部・学科別
卒業単位
配当表

開講科目表

時間制作成

聴講登録

共通基礎
科目外国語

現代総合科目・
自己選択科目

スポーツ
科目

国際交流
科目

コンソーシアム
単位互換制度

インターシップ

卒業研究

進級基準

試験

成績評価

GPA

大谷大学
履修規程

大谷大学
進級規程

II. 資格の取得

教職課程

保育士養成課程

大谷保育協会
保育心理士課程

学校図書館
司書教諭課程

博物館学課程

図書館学課程

真宗大谷派
教師課程

社会教育課程
【社会教育主事任用資格】

社会福祉士
国家試験
受験資格課程

社会福祉主事
【任用資格】

開講科目表

巻末
科目担当者
一覧表

4. GPA

GPA 制度（大谷大学履修規程 第 10 条）

① GPA とは

GPA は、Grade Point Average（グレード・ポイント・アベレージ）の略で、登録した全科目の成績の平均を数値で表し、学業結果を総合的に判断するためのものです。

② 目的

GPA は、セメスターごとに計算し OTANI UNIPA の成績照会画面に表示されます。

GPA を利用し成績が算出されることにより、セメスターごとの学習成果と推移がより明確となり各自の履修状況の確認が容易になります。これにより、皆さんの成績に関する自己管理と綿密な履修計画並びに学習意欲の向上を期待しています。

③ GPA の計算方法

計算方法は、登録した各科目の成績（グレード：S=4、A=3、B=2、C=1、F・K=0）にその科目の単位数を乗じた数値の総和を総登録単位数で除します。小数点以下第 3 位は四捨五入。

評価	評点	グレード	判定基準	
合格	S	100 点～ 90 点	4	特に優れた成績を示したもの
	A	89 点～ 80 点	3	優れた成績を示したもの
	B	79 点～ 70 点	2	妥当と認められる成績を示したもの
	C	69 点～ 60 点	1	合格と認められる最低限の成績を示したもの
不合格	F	59 点以下	0	合格と認められるに足る成績を示さなかったもの

評価不能	K	—	0	授業参加や試験について棄権・放棄をしたとみなされ、評価することができないもの
------	---	---	---	--

計算式

$$\frac{(S \text{ の修得単位数} \times 4) + (A \text{ の修得単位数} \times 3) + (B \text{ の修得単位数} \times 2) + (C \text{ の修得単位数} \times 1)}{\text{総履修登録単位数 (F \cdot K を含む)}}$$

④ GPA に算入されない科目

- ・卒業所要に含まれない諸課程科目
- ・留学、単位互換等他大学で取得した科目で本学で認定された「N」評価の科目
- ・「S・A・B・C・F・K」以外で評価される科目

⑤ 履修辞退

実際に授業を受講した結果、望ましい評価が得られないと判断した科目、もしくは登録時の予想とは異なったため受講を続けたくない科目等について、前期は 5 月末、後期は 10 月末に履修辞退期間を設けています。ただし、必修科目でクラス指定の科目を辞退すると進級・卒業見込みが立たなくなるため、注意してください。

⑥ GPA の活用

(1) 履修上限単位数の基準として利用

所定の単位を優れた成績をもって修得した学生については、単位数の上限を超えて履修登録を認めます。具体的には、直前の学期の GPA が 3.4 以上の学生に限り、学期の登録単位数の上限を 30 単位として取り扱います。

(2) 科目受講の成績水準として利用

所定の単位を優れた成績をもって修得した学生については、大学院開講科目の履修登録を認めます。具体的には、第 4 学年で直前の学期の GPA が 3.5 以上の学生に限り、科目担当教員が受講を許可した場合、大学院の基礎科目、専攻科目（演習、論文指導を除く）、選択科目の履修を認め、卒業単位として単位認定を行います。

※具体的な履修方法は、教務課窓口で確認してください。

(3) 奨学金出願の指標として活用

奨学金出願のわかりやすい目安として示し、学習意欲の向上、出願する契機とする。
出願資格（学力基準）に Total GPA を活用する。

(4) 学生指導として利用

休学や体調不良による理由ではなく、GPA が 2 期連続して 1.0 未満、かつ進級・卒業見込がない学生は、指導教員との面談を義務付けています。その結果、修学状況を確認し本学での学業の継続が難しいと判断した場合は、休学や退学勧告を行います。

1. 大谷大学履修規程

(目的)

第1条 大谷大学学則（以下「学則」という。）第6章、第7章及び第8章施行のために履修規程を設ける。

(適用)

第2条 履修規程は、原則として入学時のものを適用する。

(登録)

第3条 学生の科目受講、コース、卒業研究題目及びその他の登録は、次の事項に留意し、所定の手続を行わなければならない。

- (1) 当該年度に履修しようとする授業科目は、指導教員の指導を受け、所定の期間内に登録しなければならない。ただし、一旦登録した授業科目は、修正登録期間及び履修辞退期間（別に定める）後は原則として変更を認めない。
- (2) 一年間に登録できる単位数の上限は、原則 48 単位とし、前期及び後期それぞれ原則 24 単位までとする。ただし、学長が特に認めたものについては、その限りではない。
- (3) コースは、第2学年進級時に各コースの教員の承認を得て、所定の期間内に登録しなければならない。ただし、教育学部教育学科は、入学時に決定しているため登録を不要とする。
- (4) 卒業研究の題目は、卒業年次に指導教員の承認を得て、指定期間内に登録しなければならない。
- (5) 以上の登録を完了しない場合は、受講、コース、卒業研究の提出等を認めない。

(卒業のための最低履修単位及び学年配当)

第4条 学則第19条に定める卒業所要単位については、「卒業単位配当表」（別表第1）の基準に基づき、次のとおり履修するものとする。

- (1) 共通基礎科目の履修は、次のとおりとする。
 - ア 「総合科目」は、第1学年に「人間学Ⅰ」4単位、第2～第4学年に「人間学Ⅱ」4単位以上、計8単位以上を必修とする。
 - イ 「大学導入」は、第1学年に「学びの発見」2単位を必修とする。
 - ウ 「必修外国語」は、第1学年に「英語Ⅰ」及び「初修外国語Ⅰ」、第2学年に「英語Ⅱ」又は「初修外国語Ⅱ」を必修とする。「初修外国語」は「ドイツ語」、「フランス語」、「中国語」、「韓国・朝鮮語」又は「日本語」（外国人留学生に限る。）のうち、いずれか1カ国語を選択し履修する。履修単位数は、学部ごとに次のとおりとする。
 - 文学部
 - 「英語Ⅰ」4単位及び「初修外国語Ⅰ」4単位
 - 「英語Ⅱ」又は「初修外国語Ⅱ」4単位
 - 社会学部
 - 「英語Ⅰ」4単位及び「初修外国語Ⅰ」0単位以上
 - 「英語Ⅱ」4単位及び「初修外国語Ⅱ」0単位以上
 - 教育学部
 - 「英語Ⅰ」4単位及び「初修外国語Ⅰ」0単位以上
 - 「英語Ⅱ」4単位及び「初修外国語Ⅱ」0単位以上
 - 国際学部
 - 「英語Ⅰ」4単位及び「初修外国語Ⅰ」4単位
 - 「英語Ⅱ」又は「初修外国語Ⅱ」4単位
 - エ 「選択外国語」0単位以上
- (2) 学科専門科目の履修は、次のとおりとする。
 - ア 演習の科目は、当該学年において必修とする。
 - イ その他の科目については、第1～第4学年において履修する。ただし、学年指定のある科目は当該学年において履修するものとする。

- (3) 現代総合科目は、第1～第4学年において、キャリア形成系、自然生命系及び歴史文化系からそれぞれ4単位以上、合計12単位以上を履修しなければならない。ただし、社会学部及び教育学部にあつては全体で合計6単位以上とする。
- (4) 自己選択科目は、0単位以上とする。ただし、幅広い分野から履修した科目の単位を集計する領域とし、次の科目を認定することができる。
 - ア 他学部及び所属学部他学科の学科専門科目を履修した単位
 - イ 単位互換で修得した単位、入学前に修得した単位、留学先で修得した単位等
- (5) 第1号から前号までにおける単位の集計については、一つの科目の単位を複数の区分に分割して集計することはできないものとする。
- (6) 学年指定のある科目において、その学年に達していない学生は、これを受講できない。

(同一科目2度履修の禁止)

第5条 共通基礎科目必修外国語科目の再履修クラス、選択外国語の開講科目及び学科専門科目の「特殊講義」「特殊演習」を除き、同一科目を2度履修することはできないものとする。ただし、学長が特に認めたものは、その限りではない。

(副専攻)

第6条 学則第19条の2に規定する副専攻の種類、授業科目、単位数等の詳細は、「副専攻配当表」(別表第2)に定め、コア科目群及びリンク科目群に定められた単位を合計で20単位履修しなければならない。

- 2 副専攻の認定は1つに限り、認定を希望する者は第4学年進級時に指導教員の承認を得て、所定の期間内に「副専攻認定願」を提出しなければならない。
- 3 副専攻認定願を提出し、所定の単位を修得した者については、教授会の議を経て、学長が副専攻を認定する。
- 4 学長は、副専攻を認定した者に対して、卒業時に副専攻修了証明書を授与する。

(単位)

第7条 授業科目の単位数は、次の基準による。

- (1) 講義及び演習は、15時間から30時間までの範囲で、本学が定める時間の授業をもって1単位とする。
- (2) 外国語、実験、実習及び実技は、30時間から45時間までの範囲で、本学が定める時間の授業をもって1単位とする。
- (3) 一つの授業科目について、講義、演習、実験、実習又は実技のうち二以上の方法の併用により行う場合については、その組み合わせに応じ、前2号に規定する基準を考慮して大学が定める時間の授業をもって1単位とする。
- (4) 卒業研究は、8単位とする。
- 2 単位認定には、全授業時数の3分の2以上の出席及び当該科目の試験に合格することを必要とする。
- 3 大谷大学留学規程に定める「留学」が許可された者の、留学期間中における所属学年の「演習」の単位認定は、指導教員による指導、学生の定期的な研究成果報告等によって行うことができる。
- 4 次条第3項第5号による場合、当該科目又はその期の受験科目の単位が認定されないことがある。

(試験)

第8条 学則第27条に定める試験は、原則として学期末に行う。

- 2 試験は、筆答、レポート(論文)及び口述又は実技・実習によって行う。
- 3 次の各号のいずれかに該当する場合には、受験資格が与えられない。
 - (1) 聴講登録をしていない場合
 - (2) 学費を指定期間内に納入していない場合
 - (3) 休学によって一部受講していない場合
 - (4) 受験に際して有効な学生証を携帯しない場合

聴講登録 関連日程	
I. 履修要領	
教育研究目的	
卒業要件及び開講科目	卒業の要件
	単位制
	単位修得の認定
	学部・学科別卒業単位配当表
開講科目表	
聴講登録	時間制作成
	聴講登録
	共通基礎科目外国語
	現代総合科目・自己選択科目
	スポーツ科目
	国際交流科目
	コンソーシアム単位互換制度
	インターシップ
	卒業研究
	進級基準
成績評価	試験
	成績評価
	GPA
規程集	大谷大学履修規程
	大谷大学進級規程
II. 資格の取得	
教職課程	
保育士養成課程	
大谷保育協会 保育心理士課程	
学校図書館 司書教諭課程	
博物館学課程	
図書館学課程	
真宗大谷派 教師課程	
社会教育課程 【社会教育主事任用資格】	
社会福祉士 国家試験 受験資格課程	
社会福祉主事 【任用資格】	
開講科目表	
巻末	科目担当者一覧表

- (5) 受験中に不正な行為又は不当な行為をした場合
- 4 定期試験の受験の場合、原則として試験開始から 20 分経過するまで退出することを認めない。また、試験開始後 15 分までに入場した者は遅刻者として受験を許可し、それ以降は、原則として受験を認めない。
- 5 学生は、受験に際して「受験注意事項」を厳守しなければならない。

(追試験)

第 9 条 学則第 30 条に定める追試験は、各学部長が認めた限度内において実施する。

- 2 追試験を願い出ることができる者は、次の各号のいずれかに該当する理由により、定期試験を受けることができなかつた者とする。
 - (1) 疾病（医師の診断書添付）
 - (2) 就職試験（受験証明書添付）
 - (3) 不慮の事故又は災害（証明書添付）
 - (4) 交通機関のストライキ又は延着（証明書添付）
 - (5) その他正当と認められる理由
- 3 前項の受験希望者は、当該授業科目の試験当日より原則として 1 週間以内に「追試験受験願書」（証明書添付）を学生支援部教務課に提出しなければならない。
- 4 追試験の実施時期は、その都度定める。
- 5 大学が指定した追試験期日に受験しなかつた場合は、理由のいかんにかかわらず、再度の追試験は行わないものとする。
- 6 追試験の許可を得た者は、定められた期日までに 1 科目毎に所定の追試験料を納付しなければならない。
- 7 一旦納めた追試験料は、理由のいかんにかかわらず返還しない。

(GPA)

第 10 条 成績評価による学業結果を総合的に判断する指標として、GPA (Grade Point Average) を用いる。算出方法及び利用方法の詳細については、別に定める。

(卒業研究)

- 第 11 条 学則第 28 条に定める卒業研究は、次の要領で提出し、審査を受けなければならない。ただし、休学中の者は、提出できない。
- (1) 卒業研究を提出しようとする者は、所定の期間内に指導教員の承認を得て「卒業研究題目」を登録し、指定期限までに卒業研究を提出しなければならない。
 - (2) 前号により登録した研究題目に変更が生じたときは、指導教員の承認を得て「卒業研究題目変更届」を指定期限までに提出しなければならない。
 - (3) 卒業研究の成果物に関しては、次のとおりとする。
 - ア 卒業論文 主論文 (20,000 字程度)
 - イ 卒業研究 調査報告書等 (20,000 字程度)
 - ウ 卒業制作 文芸作品、映像・音声作品、翻訳作品等及び作品解題 (文学部、教育学部及び国際学部 6,000 字程度、社会学部 20,000 字程度)
 - (4) 卒業論文、卒業研究及び卒業制作の詳細については、別に定める。

(進級制)

第 12 条 学則第 32 条に基づく各学年の進級の基準については、別に定める「大谷大学進級規程」による。

- 2 「大谷大学留学規程」に定める「留学」が許可された者は、前項は適用せず、進級するものとする。

(転籍)

第 13 条 転籍に関する必要な事項は、別に定める。

I. 履修要領

教育研究目的

卒業の要件

単位制

単位修得
の認定

学部・学科別
卒業単位
配当表

開講科目表

時間制作成

聴講登録

共通基礎
科目外国語

現代総合科目・
自己選択科目

スポーツ
科目

国際交流
科目

コンソーシアム
単位互換制度

インターシップ

卒業研究

進級基準

試験

成績評価

GPA

大谷大学
履修規程

大谷大学
進級規程

II. 資格の取得

教職課程

保育士養成課程

大谷保育協会
保育心理士課程

学校図書館
司書教諭課程

博物館学課程

図書館学課程

真宗大谷派
教師課程

社会教育課程
【社会教育主事任用資格】

社会福祉士
国家試験
受験資格課程

社会福祉主事
【任用資格】

開講科目表

巻末
科目担当者
一覧表

(受講)

第 14 条 講義（演習、実習及び実技を含む。）は、その開講期間によって、次の 4 種類とする。

- (1) 前期講義
- (2) 後期講義
- (3) 通年講義
- (4) 集中講義

第 15 条 通年講義は、前期・後期継続して受講しなければならない。

第 16 条 他のコースの演習の科目を受講することは、原則として認めない。

第 17 条 共通基礎科目の必修外国語科目の受講は、次の基準による。

- (1) 「英語Ⅰ」及び「初修外国語Ⅰ」の履修は、第 1 学年において 1 週あたり 4 時間を指定されたクラスで受講しなければならない。
- (2) 「英語Ⅱ」及び「初修外国語Ⅱ」の履修は、第 2 学年において 1 週あたり 4 時間を指定されたクラスで受講しなければならない。
- (3) 当該学年において単位が得られなかった者は、原則として次の学年に再履修クラスで受講するものとする。

第 18 条 クラス指定された授業科目は、原則として指定クラスの授業科目を受講しなければならない。

(入学前の既修得単位の認定)

第 19 条 学則第 26 条の 2 に定める入学前の既修得単位の認定は、編入学、転入学又は再入学の場合を除き、本学で修得した単位（科目等履修生で修得した単位等）を含めて 40 単位を上限とし、次の基準によるものとする。

- (1) 本学で修得した単位は、卒業単位配当表の科目区分の当該科目として認定する。ただし、学科専門科目への認定は、講義科目 8 単位を上限とし、8 単位を超えたものは自己選択科目に認定する。
 - (2) 本学以外の大学、短期大学、高等専門学校又は専修学校の専門課程（以下「大学等」という。）で修得した単位のうち教養的科目又は専門的科目（音読・和訳、文法精読、ヒアリング、作文、対話練習・スピーチ及び原書講読）の「英語」の単位は、8 単位まで共通基礎科目の「英語」に認定することができる。同様に「ドイツ語」、「フランス語」、「中国語」、「韓国・朝鮮語」又は「日本語」（外国人留学生に限る。）の単位は、いずれか 1 カ国語について 8 単位まで共通基礎科目の「初修外国語」に認定することができる。それ以外の単位は、選択外国語に認定することができる。
 - (3) 本学以外の大学等で修得した単位のうち前号以外の単位は、現代総合科目として、キャリア形成系、自然生命系及び歴史文化系にそれぞれ 4 単位、合計 12 単位を認定する。ただし、社会学部及び教育学部にあつては現代総合科目全体で合計 6 単位を認定する。それ以外の単位は、自己選択科目に認定する。
- 2 認定の時期は、本学に入学した年度当初にのみ行うものとする。ただし、当該学期に休学した場合は、復学した学期当初に行う。
 - 3 認定を希望する者は、所定の申請書類及び成績証明書を指定期限内に学生支援部教務課に提出しなければならない。

(編・転入学生の入学前の既修得単位の認定)

第 20 条 学則第 26 条の 2 に定める編・転入学生の、大学等において修得した科目及び単位の認定は、本学で修得した単位（科目等履修生で修得した単位等）を含めて 60 単位を上限とし、次の基準によるものとする。

- (1) 共通基礎科目
 - ア 「人間学Ⅰ」 4 単位、「人間学Ⅱ」 4 単位の認定は、本学当該科目を修得している場合に行うものとする。
 - イ 大谷大学短期大学部共通科目の「仏教と人間Ⅰ」（必修）と自由科目の「仏教と人間Ⅱ」（選択）の 2 科目 4 単位を修得している場合は、「人間学Ⅰ」 4 単位に充てることができる。ただし、いずれか 1 科目のみの単位認定は行わない。
 - ウ 「学びの発見」 2 単位は、編・転入学生全員に認定する。

- エ 必修外国語は、「英語Ⅰ」4単位、「英語Ⅱ」4単位、「ドイツ語」、「フランス語」、「中国語」、「韓国・朝鮮語」又は「日本語」（外国人留学生に限る。）のいずれか1カ国語について「初修外国語Ⅰ」4単位、「初修外国語Ⅱ」4単位まで認定することができる。
- オ エにおける単位の認定は、教養的科目に該当する科目の修得単位数に応じて認定する。また、専門的科目（音読・和訳、文法精読、ヒアリング、作文、対話練習・スピーチ及び原書講読）の単位をもってこれに充てることができる。
- カ 選択外国語は、エの必修外国語で認定された科目を除き、教養的科目又は専門的科目（音読・和訳、文法精読、ヒアリング、作文、対話練習・スピーチ及び原書講読）の単位をもって認定することができる。
- (2) 学科専門科目は、「演習Ⅰ」4単位を認定する。ただし、教育学部教育学科にあつては、これらに加え「概論」、「講義」、「実践研究」の各区分を合わせて40単位を上限として認定する。認定については、大学等において履修した科目が、教育学部教育学科の学科専門科目として相応しい内容を持つもののみとし、現代総合科目及び自己選択科目と合わせて40単位を超えないものとする。
- (3) 現代総合科目は、キャリア形成系、自然生命系及び歴史文化系にそれぞれ4単位、合計12単位を認定する。ただし、社会学部及び教育学部にあつては全体で合計6単位を認定する。
- (4) 自己選択科目は、前3号以外の単位を認定する。
- (5) 第1号から前号までの認定可能な単位が60単位を超える場合は、自己選択科目の認定単位数から削減し、調整するものとする。
- 2 認定の時期は、本学に入学した年度当初にのみ行うものとする。ただし、当該学期に休学した場合は、復学した学期当初に行う。
- 3 修得単位の認定を希望する者は、所定の申請書類及び成績証明書を指定期限内に学生支援部教務課に提出しなければならない。

(再入学者の入学前の既修得単位の認定)

- 第21条 学則第26条の2に定める再入学者の入学前の既修得単位の認定のうち、退学から再入学までの期間中に大学等で修得した単位がある場合は、本学で修得した単位（科目等履修生で修得した単位等）を含めて40単位を上限とし、第19条を準用して認定することができる。
- 2 前項の認定は、第19条により認定された単位がある場合でも、それを合わせて40単位を超えないものとする。

(編・転入学生の履修すべき科目・単位)

- 第22条 編・転入学を許可された者の卒業のための最低履修科目及び単位は、第4条に定めるところによる。ただし、第20条に定めるところによって単位認定された科目を除く。
- 2 編・転入学生の履修すべき科目のうち、次の科目については、第3学年に同時履修するものとする。
- (1) 共通基礎科目の「人間学Ⅰ」
- (2) 共通基礎科目の「英語Ⅰ」「英語Ⅱ」「初修外国語Ⅰ」「初修外国語Ⅱ」
- (3) 学科専門科目の「演習Ⅱ」

I. 履修要領

教育研究目的

卒業の要件

単位制

単位修得
の認定

学部・学科別
卒業単位
配当表

開講科目表

時間割作成

聴講登録

共通基礎
科目外国語

現代総合科目・
自己選択科目

スポーツ
科目

国際交流
科目

コンソーシアム
単位互換制度

インターシップ

卒業研究

進級基準

試験

成績評価

GPA

大谷大学
履修規程

大谷大学
進級規程

II. 資格の取得

教職課程

保育士養成課程

大谷保育協会
保育心理士課程

学校図書館
司書教諭課程

博物館学課程

図書館学課程

真宗大谷派
教師課程

社会教育課程
【社会教育主事任用資格】

社会福祉士
国家試験
受験資格課程

社会福祉主事
【任用資格】

開講科目表

巻末
科目担当者
一覧表

(他の大学又は短期大学における授業科目の履修等)

第 23 条 学則第 26 条の 3 に定める他の大学又は短期大学において修得した単位は、第 19 条又は第 21 条で認定した入学前の既修得単位と合わせて 40 単位を超えない範囲で、選択外国語、学科専門科目、現代総合科目又は自己選択科目に認定するものとする。

2 前項の単位を学科専門科目に認定する場合は、「単位互換制度」で指定された科目に限り、講義科目 8 単位を上限とする。

3 認定は、当該学期に修得した単位をその学期末に行うものとする。ただし、次の場合は例外とする。

(1) 認定の学期の単位認定申請期限内に、成績証明書が発行されなかった場合は、次の学期の当初に認定する。

(2) 前号で認定する学期に休学した場合は、復学した学期当初に認定する。

4 認定を希望する者は、所定の申請書類及び成績証明書を指定期限内に学生支援部教務課に提出しなければならない。

(外国の大学又は短期大学における単位の修得)

第 24 条 外国の大学又は短期大学で単位を修得した場合は、第 19 条から第 21 条及び前条の規定を準用する。

(以下省略)

2. 大谷大学進級規程

(趣旨)

第1条 この規程は、大谷大学履修規程第12条に基づき、進級の基準及びその判定に関する必要事項を定めるものとする。

(進級の判定を行う学年及び時期)

第2条 進級判定は、次の進級時に行う。

- (1) 第1学年から第2学年
- (2) 第2学年から第3学年
- (3) 第3学年から第4学年

2 前項の判定は、学年度末に教授会において行う。

(第1学年から第2学年への進級基準)

第3条 第2学年へ進級するための基準は、次のとおりとする。

- (1) 第1学年において1年以上在学し、次の科目のうちから8単位以上修得し、かつ卒業所要単位合計18単位以上を修得した者は、第2学年への進級を認める。

人間学Ⅰ
学びの発見
英語Ⅰ
初修外国語Ⅰ
演習Ⅰ

- (2) 進級基準を充たさない者は、原級留置とし、進級を認めない。

(第2学年から第3学年への進級基準)

第4条 第3学年へ進級するための基準は、次のとおりとする。

- (1) 第2学年において1年以上在学し、次の科目及び単位数を充たし、かつ卒業所要単位合計48単位以上修得した者は、第3学年への進級を認める。

ア 「学びの発見」2単位及び「演習Ⅰ」4単位

イ 次の科目から8単位以上

人間学Ⅰ
英語Ⅰ
初修外国語Ⅰ
英語Ⅱ又は初修外国語Ⅱ

- (2) 進級基準を充たさない者は、原級留置とし、進級を認めない。

(第3学年から第4学年への進級基準)

第5条 第4学年へ進級するための基準は、次のとおりとする。

- (1) 第3学年において1年以上在学し、「演習Ⅱ」4単位を充たし、かつ卒業所要単位合計80単位以上修得した者は、第4学年への進級を認める。ただし、編入学生については、第3学年において1年以上在学し、次の科目のうちから10単位以上修得し、かつ卒業所要単位合計80単位以上を修得した者に、第4学年への進級を認める。

人間学Ⅰ
人間学Ⅱ
英語Ⅰ
初修外国語Ⅰ
演習Ⅱ

- (2) 進級基準を充たさない者は、原級留置とし、進級を認めない。

(以下省略)

1. 大谷大学学位規程

第1章 総則

(趣旨)

第1条 大谷大学学位規程は、学校教育法（昭和22年法律第26号）第104条及び学位規則（昭和28年文部省令第9号）の規定に基づき、大谷大学（以下「本学」という。）において授与する学位の種類、論文審査の方法、試験及び学力の認定の方法、その他学位に関し必要な事項を定めるものとする。

(学位の種類)

第2条 本学において授与する学位は、博士、修士及び学士とする。

(博士の学位授与の要件)

第3条 博士の学位は、その専攻分野について研究者として独創的研究活動を行うに必要な高度で精深な研究能力とその基礎となる幅広い豊かな学識を有する者に授与するものであり、本学大学院学則第22条第2項の定めるところにより、本学大学院博士後期課程を修了した者に授与する。

2 博士の学位は、本学大学院学則第22条第3項により、前項に規定するもののほか、本学に博士の学位論文（以下「博士論文」という。）を提出してその審査に合格し、かつ、専攻分野に関し本学大学院の博士後期課程を修了したものと同等以上の学力を有することが、試問によって確認された者にも授与することができる。

(修士の学位授与の要件)

第4条 修士の学位は、広い視野に立って精深な学識をそなえ、かつ、その専攻分野における研究能力又は高度の専門性を要する職業等に必要の高度の能力を有する者に授与するものであり、本学大学院学則の定めるところにより、本学大学院修士課程を修了した者に授与する。

(学士の学位授与の要件)

第5条 学士の学位は、本学学則の定めるところにより、本学学部を卒業した者に授与する。

(専攻分野の名称)

第6条 本学が授与する学位には、次のとおり専攻分野の名称を付記する。

(1) 博士の学位に付記する専攻分野の名称

学位の種類	研究科	付記する名称
博士	文学研究科	文学

(2) 修士の学位に付記する専攻分野の名称

学位の種類	研究科	専攻	付記する名称
修士	文学研究科	真宗学専攻 仏教学専攻 哲学専攻 仏教文化専攻 国際文化専攻	文学
		教育・心理学専攻	教育学

I. 履修要領	
教育研究目的	目的
	教育目標および教育方針
	各専攻の人物養成の目的
修了要件及び開講科目表	各専攻の目的と目標
	修士課程
	博士後期課程
聴講登録・成績評価	開講科目表
	単位修得の認定
	聴講登録
規程集	授業時間
	試験
	成績評価
II. 資格の取得	GPA
	学術交流について
	安居の開講について
規程集	大谷大学学位規程
	大谷大学大学院履修規程
	教職課程
規程集	真宗大谷派教師課程
	科目担当者一覧表

(3) 学士の学位に付記する専攻分野の名称

学位の種類	学 部	付記する名称
学士	文学部	文学
	社会学部	社会学
	教育学部	教育学
	国際学部	文学

(学位の名称の使用)

第7条 学位を授与された者は、学位の名称を用いるときは、本学名を付記するものとする。

第2章 博士及び修士の学位

(博士の学位授与の申請)

第8条 博士の学位授与を申請する者は、次の各号のいずれかによるものとする。

- (1) 第3条第1項の規定による者にあつては、別表第5（イ）に定める学位授与申請書に博士論文を印刷製本したものを6部、博士論文の電子データ、別表第6に定める論文目録3部のほか博士論文の要旨、博士論文の要旨の電子データ及び別表第7に定める学位論文審査料を添えて学長に提出するものとする。ただし、学位論文審査のために必要があるときは、参考論文又は資料等を提出させることがある。
- (2) 第3条第2項の規定による者にあつては、別表第5（ロ）に定める学位授与申請書に博士論文を印刷製本したものを6部、博士論文の電子データ、別表第6に定める論文目録3部のほか博士論文の要旨、博士論文の要旨の電子データ、履歴書、業績書各1部及び別表第7に定める学位論文審査料を添えて学長に提出するものとする。

(修士の学位授与の申請)

第9条 修士の学位授与を申請する者は、別表第5（ハ）に定める学位授与申請書に修士の学位請求論文（以下「修士論文」という。）2部を添えて学長に提出するものとする。

(博士論文及び修士論文の受理)

第10条 博士論文及び修士論文の受理は、大学院委員会（以下「委員会」という。）の議を経て、学長が決定する。

- 2 一旦受理した博士論文、修士論文、論文審査料等は、いかなる事由があつても返還しない。

(博士論文、修士論文の審査の委嘱)

第11条 学長は、博士論文又は修士論文を受理したとき、委員会にその審査を委嘱する。

(学位論文審査委員)

第12条 委員会は、学位論文審査委員（以下「審査委員」という。）を選出して論文の審査に当たらしめる。

- 2 審査委員の構成は、次のとおりとする。
 - (1) 第8条第1号の博士論文の審査については、指導教員を主査とし、副査は、各専攻の専攻科目で開設する、特殊研究（演習）、特殊研究Ⅰ（講義）及び特殊研究Ⅱ（文献研究）を担当する者（教育・心理学専攻は、専攻科目で開設する科目を担当する者）のうちから委員会が指名する1名を含んで2名以上とする。ただし、3親等以内の親族を含めないものとする。
 - (2) 第8条第2号の博士論文の審査については、委員会の指名する当該専攻の教授を主査とし、副査は、各専攻の専攻科目で開設する、特殊研究（演習）、特殊研究Ⅰ（講義）及び特殊研究Ⅱ（文献研究）を担当する者（教育・心理学専攻は、専攻科目で開設する科目を担当

- する者)のうちから委員会が指名する1名を含んで2名以上とする。ただし、3親等以内の親族を含めないものとする。
- (3) 前2号の副査には、他の大学又は研究機関等の教員、研究員、それらに相当する学識経験者等の学外者を含めることを原則とする。また、委員会が必要と認めたときは、本学及び大谷大学短期大学部の教員を加えることができる。
 - (4) 第9条の修士論文の審査については、指導教員を主査とし、委員会の指名する大学院授業担当教員を副査とする。
 - (5) 委員会が必要と認めたときは、前号の規定にかかわらず、副査に本学の名誉教授、教員及びそれらに相当する学識経験者を加えることができる。

(博士論文、修士論文の審査及び試験)

- 第13条 第8条第1項第1号の博士論文の審査及び最終試験は、当該論文を受理した後、6カ月以内に終了するものとする。
- 2 第8条第1項第2号の博士論文の審査及び試験は、当該論文を受理した後、1年以内に終了するものとする。
 - 3 第9条の修士論文の審査及び最終試験は、当該論文を受理した後、3カ月以内に終了するものとする。
 - 4 審査委員は、博士論文又は修士論文を中心とし、審査期間中適当な時期に口述又は筆答をもって、最終試験又は試験を行う。

(博士論文の発表会)

第13条の2

第8条の博士論文については、最終試験までに博士論文発表会を開催するものとする。ただし、委員会がやむを得ない事由があると認められた場合は、発表を免除することができる。

(学力の確認)

- 第14条 第3条第2項の規定による学力の確認は、口述又は筆答による試問を行うものとし、外国語については2カ国語を課するを原則とする。
- 2 本学大学院博士後期課程に所定の修業年限以上在学し、所定の単位を修得して退学した者が、第3条第2項の規定により学位授与を申請する場合は、その退学の日から起算して3年以内限り、学力の確認を免除することができる。

(審査結果の報告)

第15条 審査委員は、審査終了後ただちにその結果を委員会に報告しなければならない。

(論文審査の議決)

- 第16条 委員会は、審査委員の報告に基づき、第3条第1項によるものについては博士論文、第2項によるものについては博士論文及び試験又は学力の確認の結果につき、無記名投票により可否について議決する。
- 2 前項の委員会の議決は、委員総数の3分の2以上の出席を必要とし、合格については出席者の4分の3以上の同意を必要とする。ただし、公務のための欠席者は前記の定員に算入しない。
 - 3 第1項の無記名投票結果については、委員会でのみ票数を公表する。

(課程修了の議決)

第16条の2

委員会は、審査委員の報告に基づき、第3条第1項及び第4条によるものについては、本学大学院学則の定めるところにより、それぞれの課程の修了の可否について議決する。

- 2 前項の委員会の議決は、委員総数の3分の2以上の出席を必要とし、合格については出席者の4分の3以上の同意を必要とする。ただし、公務のための欠席者は前記の定員に算入しない。

I. 履修要領	
教育研究目的	目的
	教育目標および教育方針
	各専攻の人物養成の目的
修了要件及び開講科目表	各専攻の目的と目標
	修士課程
	博士後期課程
聴講登録（成績評価）	開講科目表
	単位修得の認定
	聴講登録
	授業時間
	試験
	成績評価
	GPA
	学術交流について
	安居の開講について
	規程集
大谷大学大学院履修規程	
II. 資格の取得	
教職課程	
真宗大谷派教師課程	

(学長への報告)

第 17 条 委員会が、学位を授与すべきものと議決したとき、大学院文学研究科長は、論文に審査要旨及び最終試験又は試験の成績を添え、文書により学長に報告しなければならない。なお、第 3 条第 2 項の規定により学位の申請をするものについては、試問の成績も添えなければならない。ただし、修士にあつては、合格判定報告書をもって、これにかえることができる。

(学位の授与)

第 18 条 学長は、前条の報告を十分に考慮し、博士及び修士の学位の授与を決定する。

(学位記)

第 19 条 本学は、博士及び修士の学位の授与を決定した者に学位記を授与する。

2 学位記の様式は別表第 1 から別表第 3 までのとおりとする。

(博士論文要旨の公表)

第 20 条 本学は、博士の学位を授与した日から 3 カ月以内に、その論文の内容の要旨及び論文審査の結果の要旨を本学ホームページ等に公表するものとする。

(博士論文の公表)

第 21 条 博士の学位を授与された者は、当該博士の学位を授与された日から 1 年以内にその論文をインターネットの利用により公表するものとする。ただし、当該学位を授与される以前に、すでにその論文をインターネットの利用により公表したのものについてはこの限りでない。

2 前項の規定にかかわらず、博士の学位を授与された者は、やむを得ない事由がある場合には、本学の承認を受けて、当該論文の全文に代えてその内容を要約したものをインターネットの利用により公表することができる。この場合、本学は、その論文の全文を求めに応じて閲覧に供するものとする。

(博士の学位授与の報告)

第 22 条 本学において博士の学位を授与したときは、学長は当該博士の学位を授与した日から 3 カ月以内に、別表第 8 の様式による学位授与報告書を文部科学大臣に提出するものとする。

第 3 章 学士の学位

(学位の授与)

第 23 条 学長は、教授会の議を経て、第 5 条に定める者に対し、学士の学位の授与を決定する。

(学位記)

第 24 条 本学は、学士の学位の授与を決定した者に卒業証書・学位記を授与する。

2 卒業証書・学位記の様式は別表第 4 のとおりとする。

第 4 章 学位授与の取消し

(学位授与の取消し)

第 25 条 学長は、学位を授与した者にその名誉を汚辱する行為があつたとき、又は不正の方法により学位の授与を受けた事実が判明したときは、委員会又は教授会の議を経て、学位の授与を取消し、学位を返還させることができる。

2 前項の委員会又は教授会の議決は、構成員総数の 3 分の 2 以上の出席及び出席者の 4 分の 3 以上の同意を必要とする。

(以下省略)

巻末	科目担当者一覧表
----	----------